
1 札幌市若者支援施設管理業務の実施状況

(1) 総括管理業務

ア 管理運営に係る基本方針の策定

(ア) 管理運営業務の基本方針

札幌市若者支援基本構想の目標に基づき、これまでの実践で得た知見をもとに、若者の社会参画的自立促進に向けて、「社会的セーフティーネット」「若者同士の交流、仲間づくり」「社会参画」3つの視点から若者への伴走型支援に取り組んだ。

また、居場所での出会いをきっかけとした関係構築によって以下の3点に注力し若者を支える社会の創造の実現に向けて取り組んだ。

- ・居場所をよりどころに若者の日常が彩られるための伴走型支援
- ・社会と若者の新たな接続のカタチづくり
- ・「市民とともに運営する公共施設」としての透明性の確保と弛まない成長

《実施状況》

3つの視点を基に、施設運営、各種事業を推進する中で、新たな若者の獲得が推進し、利用者の増加、施設の賑わいにつながった。

(イ) 令和6年度 管理運営業務の行動計画

- a 若者一人ひとりに必要な居場所機能を明らかにし、多様な過ごし方を提案し実践した。

《実施状況》

施設外でのアウトリーチ事業を強化し、定時制・通信制高校を中心に学校内・訪問型居場所の多様な出張ユース・ワークやYouth+みんなのカフェ部など施設外においての活動を展開した。また、ロビーを活用し、日常的なユースワークの実践により、若者とかかわりを深め居心地のよいロビー空間づくりに努めた。

- b 若者のニーズ調査を行い、ニーズに沿った事業を検討した。また、若者のニーズアンケート、全国アウトリーチ実践者との座談会、ユースワーク協議会における他都市との情報交流会をとおした調査を実施した。

《実施状況》

施設外で Youth+の認知度の向上を図った中で、施設に足を運ぶ若者が増加し、ロビー利用の定着化につながった。

- C 若者を取り巻く環境及びニーズを調査や、現時点でつながりのある地域・社会資源へ向けて課題意識の共有を図り、プレ事業を実施した。

運営協議会より孤立や予期不安に陥る傾向がある大学生の現状を知り、大学構内におけるユースワークをとおした体験や学ぶ機会を提供した。

《実施状況》

食支援へのニーズの高さを実感し、新たな事業展開の検討につなげた。ユースワークへの興味関心が向上した。その結果、地域若者サポーターへの登録、有期職員への雇用に結びつくなど、ユースワークの必要性を伝えることができ、認知の向上へつながった。

- d 社会の動向や国の施策等の情報について具体的な事業プログラムを展開した。10代の複雑化する困難に対して、Youth+の機能を柱に置き、定時制・通信制の高校を対象に、サポートステーション、ヤングケアラー相談サポート事業、リビングカー（移動型居場所）を複合したアプローチ事業を行った。

《実施状況》

ユースワーカーと交流を図る中で、Youth+の利用の推進やヤングケアラー当事者とつながる機会が得られるなど、困難な状況を抱える若者の支援に貢献した。

《全体をとおして》

アウトリーチ事業を強化したことから、Youth+の認知度が向上するとともに、施設に足を運ぶ若者が増加し、ロビー利用者の定着化につながった。また、大通ユースワークをとおした若者の声の聞き取りやユースワーク協議会との他都市情報交流会、若者支援施設運営協議会などとともに社会課題の把握を行った。

その中では、多くの大学生が孤立や予期不安などに陥る傾向がある現状を目の当たりにし、Youth+において実施した「ユースワーカー養成講座」や大学において、ユースワークをとおした体験や学びの機会を提供した。その結果、ユースワークに興味関心を持った若者が増え、地域若者サポーター（ボランティア）や、有期職員としての雇用にもつながった。

イ 平等利用に係る方針等の策定と取組み

平等利用を確保するための基本的な方針に基づき、統括責任者の下、全職員の心構えを明確にし、取り組んだ。若者に限らず広く市民の声に耳を傾け、法令遵守に留まらないコンプライアンス意識を持った運営を基本とし、誰もが利用しやすい施設づくり及び情報提供について以下の項目に沿って実施した。

《実施状況》

基本的な方針に基づき、全職員に心構えを徹底し、貸室業務及び各種事業展開に努めた。

- ・日常の窓口業務やモニタリングアンケートをとおして、広く市民の声に耳を傾けるとともに、コンプライアンスを徹底し、誰もが利用しやすい施設づくりに取り組んだ。
- ・差別的な取組みの排除。
- ・若者以外の貸室等の利用において、平等利用の徹底による利用促進を図った。
- ・様々な理由により情報収集に乏しく、また経済的困難等から施設来所に至らない若者への平等利用を意識し、アウトリーチ事業を推進した。
- ・オンライン予約システムの利用の周知徹底、貸室利用料金の変更に伴う周知も丁寧な説明や掲示を行い、すべての利用者の平等利用の確保に努めた。

ウ 地球温暖化対策及び環境配慮の推進

(ア) 基本的な考え方

札幌市環境マネジメントシステムに基づいて作成した職員環境マニュアルに沿って、職員一人ひとりが意識を高め取り組んだ。

また、持続可能な開発目標（SDGs）の視点を踏まえた環境に配慮を意識し取り組んだ。

(イ) 指針

- a エネルギー使用量の削減
- b 事業活動をととした市民への環境配慮行動に関する啓発・教育活動の実施
- C 職員への環境配慮行動の徹底
- d 各種設備の適正な維持管理及び新設にあたっての配慮事項の徹底
- e 施設管理業務及び事業活動に関する各種法令の遵守

(ウ) 具体的な取り組み

環境関連法令等の遵守と排出エネルギーの抑制

- ・札幌市環境マネジメントシステム（EMS）に則り、各種調査等への協力を行った。
- ・利用者がいない時間帯の消灯、暖房の温度設定、外気温にあわせた温度調整など工夫をした。
- ・利用者へ節電や節水に対する啓発掲示を行い、施設の運営に支障のない範囲での工夫を行い、エネルギー消費の抑制に取り組んだ。
- ・備品購入時は、省エネタイプの製品を積極的に選定した。
- ・必要資料をデータ配信とし、コピー用紙の節減のほか、グリーン購入促進、ごみの分別徹底によるごみの減量化を図った。

(2) 環境に関わる施策への協力

- ・さっぽろエコメンバーレベル3の事業所として環境配慮の取り組みを維持した。
- ・さっぽろエコスタイルに仕組み、温度管理の徹底と冷暖房に頼り過ぎないクールビズ、ウォームビズ）の励行と推進に取り組んだ。

(3) 環境に関わる職員研修の実施

- ・「札幌 SDG s 企業登録制度」登録企業として、「省エネ・節電」に対する職員へ研修を行った。

<実施状況等>

エネルギー使用の削減を意識し、冷暖房の温度設定及び節水に係る取り組みを強化した。また、職員の環境配慮行動の理解を深め、事務用品や施設備品など環境配慮に適した製品を厳選した。

【エネルギー使用量の比較】

(原油換算 単位：L)

施設名	令和 6 年度	令和 5 年度	前年比
Youth+センター	3,178	3,425	93%
Youth+アカシア	14,705	15,094	97%
Youth+ポプラ	21,887	20,747	105%
Youth+豊平	28,151	22,611	125%
合 計	68,121	61,887	110%

エ 管理運営組織の確立

(ア) 責任者の配置、組織整備、従事者の確保・配置

- ・若者支援施設の円滑な業務遂行を行う管理運営組織を構築するため、統括責任者及び職務代理者、各施設に責任者を配置した。
- ・有事の際にも施設運営を維持できる職員の他施設への応援体制、緊急連絡体制を整備した。
- ・ホームページでの採用募集、ハローワークや民間求人サイトを活用し、広く人材を募集して雇用につなげ職員体制を確保した。
- ・各施設に適切な職員配置を行うとともに、緊急時の連絡体制、指揮命令系統を明確にし、円滑な施設運営業務の遂行と事業の充実を図った。

(イ) 従事者の確保・配置

職員配置計画に提案した職員数を基本とし、また、仕様書で求められている Youth+センターにおける相談業務に対応する有資格者の配置を行った。

【令和 7 年 3 月 1 日現在の配置数】

(人)

施設名	指定管理業務	自主事業	合計
Youth+センター	12	13	25
Youth+アカシア	7	0	7
Youth+ポプラ	6	1	7
Youth+豊平	5	0	5
Youth+宮の沢	7	0	7
合 計	37	14	51

※1 表の人員のほかに、当法人として社会福祉施策及び障がい者法定雇用率維持に基づいて雇用し、施設に配置した。

業務内容としては、受付窓口や簡易な経理事務、相談等を担った。

※2 自主事業「地域若者サポートステーション事業」（以下、「サポステ」という）では、キャリアコンサルタントのほか社会福祉士などの有資格者を雇用した。

(ウ) 人材育成・研修計画

人材育成・研修年間計画に基づき、施設管理及び若者との関係構築に必要なスキル等、若者支援施設の運営に必要な項目について研修を実施した。

《実施状況等》

・休館日を活用した職員全体研修

若者支援施設の運営に伴う様々な技術・知識の習得を目的とし、庶務、管理、個人情報保護、コンプライアンス、救急法（AED 使用法を含む）、Instagram の活用等を学ぶ機会を設けた。

・ゼミナール形式による自ら学ぶ研修

今年度プロアクティブな職員の育成を目指し、全研修の軸として取り組んだ。ユースワーカーとして、若者を取り巻く社会環境、施設管理における他団体の連携など課題ごとに 4 つのグループを設定し、各グループがそれらの課題における仮説を立て、調査・研究活動を行う中で、学びを深めた。

<Yゼミテーマ>

- ① 『施設外における居場所づくりの可能性とその実践について』
- ② 『他機関連携(学校・NPO 等外部機関)の可能性とその実践について』
- ③ 『指定管理施設を有効活用し、守りぬくための実践について』
- ④ 『札幌のアウトリーチとユースセンターの相乗効果』

・その他

新任・当法人他課からの異動職員を対象とした研修、自立支援研修、外部大学講師によるユースワークスキルアップ研修等を実施した。

【全体研修・休館日研修】

実施日	内 容
4 月 10 日 (水)	① こども若者事業部研修全体研修 ② 服務規律・接遇 ③ 個人情報保護 ④ 環境配慮についての取り組み ⑤ 救命救急 AED 研修 ⑥ 令和 6 年度事業計画書の確認等
5 月 10 日 (金)	① 今年度の研修の取り組み方について ② Yゼミ (グループ・ワーク)
6 月 11 日 (火)	① 各館・プロジェクト・事業報告 ② Yゼミ (グループ・ワーク)
7 月 10 日 (水)	北海道札幌南校定時学校祭ユースワーク実習
8 月 9 日 (金)	① Yゼミ (グループ・ワーク) ② デジタルリソース研修
9 月 10 日 (火)	① プロジェクト事業情報共有 大通ユースワーク・カフェ部・ ユースワーカー協議会 ② Yゼミ (グループ・ワーク)
10 月 10 日 (木)	① Yゼミ (グループ・ワーク) ② 外部研修 (出張) 報告 ③ Yゼミ活動報告
11 月 11 日 (月)	① 4～10 月取り組みの振り返り ② LGBTQ 取り組みの共有 ③ 外部研修 (出張) 報告

実施日	内 容
12月11日（水）	① コンプライアンス研修 ② 令和6年度事業計画・プロジェクト等事業検証 ③ ユースワーク基礎研修 ・ユースワークの自己理解・ユースワークの価値観
1月11日（月）	① Yゼミ活動報告（質疑応答） ② 外部研修（出張）報告
2月10日（月）	① ウェブアクセシビリティ研修 ② ジョブ・クラフティング（やりがい作り）研修共有 ③ 「自分にとっての仕事の意味」を考える ワークショップ ④ Yゼミ（振り返り） ⑤ ストーリーテリングワークショップ ⑥ 外部研修（出張）報告
3月11日（火）	① 各 Youth+事業等振り返り ② 外部研修（出張）報告

【その他の研修】

実施日	内 容
4月12日（金） 11月8日（金）	初任者・異動者研修
7月24日（水）	自立支援研修
随 時	外部研修への参加

《実施状況等》

若者支援施設として、必要知識・技術を習得に留まらず、自ら課題を明確にし、その解決に向け職員の考動を生み出した。

その取り組みから、新たな団体や通信制高等学校とのつながりが生まれ、今後、更なる連携が期待できる結果につながった。また、若者支援施設職員として、社会の課題を意識しそれらに応える新たな取り組みを生み出すための基礎的スキルを習得した。

オ 管理水準の向上に向けた取組み

(ア) 責任者会議の設置

統括責任者の召集の下、定期的に責任者会議を開催し、若者支援施設の管理水準の維持向上につなげた。また、月 1 回の定期的な開催の他、必要に応じて臨時責任者会議を開催し、管理水準の維持向上に努めた。

(イ) 情報共有の取組み

日常的な情報共有に注力した。情報をクラウド上で管理徹底することで、職員全員が高い安全性のもと迅速に情報の共有を図った。

また、改善・対処すべき課題については、速やかな意思決定を行い、市民サービスの向上に取り組んだ。

(ウ) 業務見直しの方法

- ・統括責任者の招集による定期的な責任者会議を活用し、業務の見直し改善策を協議し、管理水準の維持向上を図った。
- ・有事の際には、統括責任者の指揮の下、対応にあたる職員を招集し、解決及び業務改善を図った。
- ・施設の点検、運営方法の見直しを定期的に行い、事故発生防止に努めた。職員間の情報の共有、把握に努め、業務改善が必要な場合は迅速に協議、改善する体制を整えた。

カ 第三者に対する委託業務等の管理

業務を確実かつ効果的な執行と適正を確保した。また、利用者の安全を確保し、安心安全な施設環境を維持した。

(ア) 専門的技術を要する業務については、以下の項目を遵守し業務を履行した。

- a 委託業務に従事する労働者環境の適正確保
- b 利用者の十分な安全の確保
- c 責任者を明確とし、必要な指導、検査、確認等の徹底
- d その他修繕等役務を要し、専門業者への委託が必要となる業務

(イ) 委託業務一覧

業務名	契約先	期間
清掃業務 (アカシア、豊平)	株式会社東洋実業	2 年間
機械警備業務 (総合・アカシア・ポプラ・豊平)	株式会社ベルックス	5 年間
暖房給湯設備保守点検業務 (アカシア、豊平)	東テク北海道株式会社	単年度
消防設備等保守点検業務 (アカシア、豊平)	道民防災コンサルタント 株式会社	単年度
オイルタンク漏洩点検業務 (豊平)	株式会社アイックス	単年度
受水槽清掃及び水質検査 (アカシア、豊平)	株式会社キタデン	単年度
除雪及び排雪業務 (アカシア、豊平)	アカシア:株式会社光和 豊平:三和創建株式会社	単年度
体育室ウレタン塗装清掃業務 (アカシア、豊平、宮の沢)	新生美装興業株式会社	単年度
建築基準法（第 12 条第 2 項及び 第 4 項）定期点検業務 (アカシア、ポプラ、豊平)	道民防災コンサルタント 株式会社	単年度

※別紙 1「札幌市若者支援施設館内修繕等一覧」のとおり

《実施状況》

市内企業へ第三者委託し、適正な施設管理に努めた。また、定期的な点検、メンテナンスを行い、修繕個所の早期発見を意識し、精度の高い業務の履行に努め要求水準を満たした。

キ 札幌市及び関係機関との連絡調整

(ア) 札幌市若者支援施設運営協議会の設置運営について

管理業務等の仕様書に基づき、札幌市及び外部有識者等により構成する運営協議会を年間3回開催した。

- ・施設運営に係る報告及び検討の提案
- ・以下のテーマについて意見交換及びご意見をいただいた。

[第1回]

- ・今後に向けた運営協議会委員のみなさまとの協働の取組みについて

[第2回]

- ・令和7年度事業連携に向けて

学校（大学・通信制高校等）から求められることを踏まえた今後のYouth+の取組みについて

[第3回]

- ・令和7年度事業計画から重点項目の取組みに向けて

《実施状況》

施設運営及び事業実施報告、利用者アンケート等の報告を行い、専門的な視点から、改善策や若者支援施設に期待されることなどのご意見をいただいた。施設や事業実施状況等を適切に報告した。

また、施設や事業実施状況等を適切に報告した。また、各回、その時々に必要なテーマを設けた意見交換の内容を施設管理及び事業運営の活性化につなげ効果的であった。

<開催日・開催内容>

開催回	協議・報告内容
第1回	(1) 施設・事業実施状況報告 (2) 数値目標達成状況報告 (令和6年4月～6月まで) (3) 令和6年度事業目標について (4) 意見交換 ＜テーマ＞ 今後に向けた運営協議会委員のみなさまとの協働の取組みについて

開催回	協議・報告内容
第2回	(1) 施設・事業実施状況報告 (2) 数値目標達成状況報告（令和6年4月～10月まで） (3) 意見交換 <テーマ> 令和7年度事業連携に向けて 学校（大学・通信制高校等）から求められることを踏まえた今後のYouth+の取組みについて
第3回	(1) 施設・事業実施状況報告 (2) 数値目標達成状況報告（令和6年4月～令和7年2月） (3) 利用者登録時アンケート結果 (4) 次年度アンケートについて (5) 令和7年度事業計画及び事業戦略について (6) 意見交換 <テーマ> 令和7年度事業計画から重点項目の取り組みに向けて

※別紙2「札幌市若者支援施設運営協議会設置要綱・委員名簿」のとおり

（イ）さっぽろ子ども・若者支援地域協議会の運営

子ども若者支援の切れ目のないネットワークを構築することを目的に、地域協議会の調整機関として構成機関及び地域の民間支援団体のコーディネートを行った。

- ・実務者会議の開催：年4回（6月、10月、1月、3月）
- ・代表者会議への参加：年1回（3月）
- ・子ども若者支援セミナーの開催：年2回（9月、12月）

<実施内容・状況>

a 9月のセミナー

「親元を巣立つのが難しい日本の若者達～北欧の“離家”政策から考える～」をテーマに実施し、76名の参加があった。

b 12月のセミナー

不登校支援をテーマに実施し、教職員を中心に23名の参加があった。なお、セミナー実施については構成機関からのニーズや助言、広報協力を得て実施している。日常的な連携、協力体制を基盤とし、国の動向を踏まえた札幌市独自の協議会として機能している。

(ウ) 札幌市が開催する連絡会等への出席・関係機関との連絡調整

札幌市が開催する若者支援にかかわる連絡会議等には、札幌市と調整したうえで出席するとともに、関係機関（利用者団体等関連する団体や組織、機関等）との良好な関係を維持し、必要に応じて連絡調整を行った。

ク 財務（資金管理、現金の適正な取扱い）

当法人の「庶務規定及び財務規程」に則り、適正な資金管理を行った。指定管理業務、自主事業の経理を明確に区分し、収支等経理に関する記録（現金出納簿、帳票等）を整備した。さらに、責任者による毎月の収支確認や費用の適切な管理のため、内部監査を実施した。

適正な事務を執行した。現金の取り扱いは複数人での確認を徹底し事故発生の予防に努めた。

なお、当法人内部監査及び札幌市財務検査においての結果は適正であった。

(ア) 適正な現金の取扱い、指定管理費を含む収入などの資金管理について施設利用料金等、現金の取り扱いは、安全、確実、かつ効率的に行うことを目的に収入事務ルールを設定し万全に実施した。

(イ) 指定管理費を含む収入などの資金管理について

- ・各施設における収入管理業務は、複数の職員での確認を行い、翌銀行営業日に速やかに預け入れを行い、当該月の収入は、翌月に当法人総合口座へ一括振替とし、取り扱いルールを徹底した。

- ・毎月15日と末日に出納簿の点検を行い、当法人総務課において一括管理を行った。

- ・収益及び施設運営費用の予算の執行状況においては、内部ネットワークを介し都度確認が可能な体制を保った。

- ・コンプライアンスの徹底と職員のモラル醸成を図り、事故等を未然に防ぐ対策を整えた。

ケ 要望・苦情対応

(ア) 要望・苦情への公平・平等、適切かつ迅速な対応

日常的に市民の意見や要望を把握するために、ご意見箱を設置した。

また、利用者満足度アンケートや利用者とのコミュニケーションにより日常的な要望やご意見の把握を行った。その他、ご意見箱等に寄せられたご意見については、迅速に対応し改善した。また、要望・苦情については、真摯に受け止め、公平・平等、適切かつ迅速な処理回答を行った。

ご意見箱については、7件いただき適切に対応し、内1件は、日ごろの感謝を伝えていただいた内容であった。

(イ) a 対応事例（ご意見箱・一部抜粋）

施設名	内 容
Youth+センター	要望：若者の声を書き込む掲示板について、個人が特定できない手法を検討してほしい。 対応：改善し対応した。
Youth+宮の沢	要望：貸室団体の活動日時の問い合わせに答えてもらえない。 対応：貸室団体主催者に確認し、了承を得て回答ができるように対応した。

b 対応事例（窓口・アンケート）

施設名	内 容
Youth+センター	要望：ロビーの若者の声が大きくうるさい。 対応：利用者への声掛けを行うとともに、施設の主旨をご説明しご理解いただいた。
Youth+アカシア	要望：自習機の配置について 対応：レイアウトの変更を行い、資料、PC の置きやすいスペースを確保した。
Youth+ポプラ	要望：自習機のコンセントを設置 対応：延長コードを活用しコンセントの使用が可能となるよう改善した。
Youth+豊平	要望：駐車スペースを増やして欲しい。 対応：駐車スペースに限りがあることから、公共交通機関の利用や、満車の場合は、近隣パーキングを利用させていただくように、施設周辺コインパーキングマップをお渡しし理解いただいた。

施設名	内 容
Youth+宮の沢	要望：各部屋で wi-fi が使えるようにして欲しい 対応：ロビーに free wi-fi を設置している。必要に応じてロビーでインターネット接続していただくようお願いした。また、各部屋には、機材の導入や施設改修、札幌市への相談も必要なことから早急な対応は難しいことをお伝えしご理解いただいた。

コ 記録・モニタリング・報告・評価

(ア) 記録

若者支援施設の安定的かつ効率的な管理運営の確保を目的に、業務日誌、文書管理簿、事業計画、事業報告書、収支予算決算に関する書類等指定管理業務の実施に関する記録を常時整備した。

その他、自立支援事業登録者に加え、ロビーワーク等で対応した若者の状況やその対応を実践記録として保管した。

なお、記録については、個人情報の適正な取扱いに関する基本方針に基づき、個人情報の管理区域の設定及び安全管理措置の実施に伴い、安全な場所で保管した。また、日々の記録をもとに定期的にケース検討会を行い個別支援につなげた。

《実施結果》

施設運営において必要な記録の項目において、整備を行い効果的な管理運営を確保した。

(イ) セルフモニタリング

市民ニーズを捉えた運営が行われているかなど、利用者や市民の声についての測定を行い、定期的な業務の見直し改善策を講じた。

- a 利用者満足度アンケート（職員接遇含む）
- b 財務・財務検査項目による事故チェック
- C 当法人内部監査
- d その他事業等における利用者のニーズ把握
- e 若者支援施設における日常的な要望の把握

<実施内容>

a 利用者満足度アンケート

・調査目的

施設、職員への満足度調査(セルフモニタリング)項目、自由記述項目により、特に管理面で改善を要する箇所についての情報収集を行い、施設の利便性を高めることを目的に実施した。

一般団体・若者団体と支援対象を分けた集計を行い、各々の満足度について調査した。

・調査期間：令和6年11月28(木)～12月22日(日)の25日間

・調査方法：利用時の窓口配布、終了時回収の留置調査法

・質問項目：貸室利用、貸室申込について、職員の接遇など全6問、その他自由記載欄を設け、具体的な意見等をいただいた。

・調査対象：各 Youth+の有料貸室を利用する一般及び若者団体代表

・期間利用団体数：591 団体

・有効回答団体数：518 団体（回収率：88.0%）

※詳細については、「利用者の満足度利用者アンケートの結果」参照。

b 利用者モニタリング事業

若者からの意見を施設運営反映することを目的にモニタリングを実施し若者の意見を引き出した。

施設のレイアウトの変更や希望書籍等、若者が求めているニーズ調査を行い、柔軟に若者の声を反映したロビーの空間づくりや環境整備を行った。

《具体的内容》

・定期的なロビー空間のレイアウト変更を実施した。くつろぎのスペースの導入や、自習室の環境の整備など利用者の声を多く取り入れた空間づくりを行った。

・若者の声を柔軟に事業に反映させ、若者の「やりたい」を形にした事業を展開した。

C 若者支援施設における日常的な要望の把握

日常的なロビーワークをとおして、また、窓口での対応など直接的な聞き取りにより、若者を中心とした市民のニーズを把握した。

<実施結果>

若者や貸室利用を中心とした市民のニーズを把握し、施設運営や事業に反映した。

(ウ) 事業報告等

指定管理業務協定書に基づき

- ・年度終了時に提出する報告は適切に提出した。
- ・月次業務報告書を（翌月 15 日まで）提出した。

<実施結果>

事業報告書等の提出については、適正に対応した。

(エ) 札幌市等の検査対応

施設の管理運営に関する札幌市の検査、確認、要請に対応した。

a 指定管理業務「業務・財務検査」

令和 7 年 2 月に全施設を対象とした検査に対応した。

b 指定管理業務「業務検査」（随時）

令和 7 年 2 月に全施設で実施した事業等の実施状況検査に対応した。

C 当法人内部監査

令和 6 年 10 月に他セクションの管理者より第三者視点での監査を実施。貸室承認申請や金銭の取り扱い、備品管理、文書の収受処理状況についての確認を受けた。

《実施状況等》

a b ともに誠実に対応した。また、結果は、「適正に実施している」との通知を受けた。また、当法人内部監査における結果は適正であった。

(2) 労働関係法令遵守、雇用環境維持向上

ア 労働関係法令遵守

労働関係法令を遵守し、就業規則を整備し必要な届出を確実に行った。
勤怠管理システムを活用し、労働時間、休暇、時間外労働等の適切な労務管理を行った。

就業規則に従い、労務管理を適正に行い、休暇の取得、労働時間の適正化を徹底した。

イ 雇用環境維持の向上

(ア) 職員一人ひとりのライフスタイルに合わせた働き方が継続できるよう雇用環境の向上に努めた。

(イ) 職員の体調管理維持として、年次有給休暇及び健康増進や元気回復の目的であるリフレッシュ休暇の取得促進を図った。該当職員は、計画的に年5日以上の子年次有給休暇を取得した。

(ウ) メンタルヘルス・ハラスメント・育児休業・出産時育児休業・法令違反行為に関する（公益通報）等の各種相談窓口を設置し、雇用環境の維持向上に努めた。

(エ) 常勤職員全員を対象にストレスチェックを実施した。また、産業医契約を締結し、メンタルヘルス不調者に対する面談体制を整えた。

(オ) カスタマーハラスメント対策基本方針の制定

基本方針を制定し、職場環境の維持、適正な市民サービスの提供や各種相談窓口等を設置し、雇用環境の維持に努めた。また、カスタマーハラスメントの方針及びマニュアルの整備、研修を実施し職場環境の維持に努めた。

(カ) 障がい者雇用

当法人として、障がい者手帳を保持している職員を配置した。業務内容としては、受付窓口や簡易な経理事務、相談等を担った。また、各種相談窓口等を設置し、雇用環境の維持に努めた。

(キ) コンプライアンス

コンプライアンスに対する基本的理解の促進と遵守の強化、徹底を目的に研修を実施した。また、研修をとおして、共通理解を図った。

(3) 施設・設備等の維持管理業務

ア 総括的事項

(利用者の安全確保、市民サービス向上への配慮、連絡体制確保、保険加入)

(ア) 施設、設備等の維持に関する管理

市民の利用に支障が生じないように、施設、設備、備品等の機能等を良好に維持管理し、日常点検やメンテナンスを実施した。関係法令に基づき、施設、設備、備品等の機能を良好な状態の維持管理を徹底した。

(イ) 利用者の安全管理

施設利用者のみならず、近隣住民や歩行者、その他職員を含めた施設運営にかかわる全ての者の安全確保に努めた。また、施設の瑕疵による事故やケガが発生しないよう、施設内外の破損・劣化箇所を定期的に確認し適正な修繕等を実施した。

(ウ) 災害・救急時の対応・連絡体制の確保

緊急連絡網及び自衛消防組織を作成（設置）し有事に備えた。
また、連絡体制の確保だけでなく、火災等の災害時を想定した訓練を行った。
適正な対応と連絡体制の確保を徹底した。

(エ) 損害賠償保険

指定管理仕様書に適合した保険に加入した。また、事業参加者に適用する施設賠償保険、レクリエーション保険に加入し、不測の事態に備え安全性を確保した。適正に加入した。

(オ) 市民サービスの向上

貸室予約は、従来からの窓口と電話での申し込み方法に加え、インターネット予約を継続した。利用者が、リアルタイムで貸室状況を確認し、予約を可能とするシステム環境を維持した。

イ 施設・設備等の維持管理

(ア) 設備、備品の維持に関する管理

a 第三者への業務委託

関係法令に基づき、施設、設備等全般の機能を良好に維持するため、専門的な技術を要する業務は、第三者委託を行った。

(a) 清掃業務（日常清掃、定期清掃）

(b) 機械警備業務

(c) 受水槽清掃及び水質検査業務

(d) 除排雪業務

(e) 暖房給湯設備保守点検

(f) 施設・設備等の保守点検（消防設備等保守点検業務、オイルタンク漏洩点検業務、消防設備点検、体育室ウレタン塗装清掃業務、建築基準法第 12 条点検）

※Youth+センター及び Youth+ポプラにおける清掃業務は、病院や福祉施設等の清掃業務を請け負っている企業の協力を得て、自立支援事業のジョブトレーニングの場として実施した。利用者に支障をきたすことがないように、実施時間や日程を調整し、第三者業務委託を適正に履行した。

(イ) 施設及び設備の保守点検業務（Youth+宮の沢を除く）

a 日常点検

利用者の安全と利便性の確保を目的に、施設内外の日常点検を行い、事故等の未然防止と備品等の破損や劣化の早期発見に努めた。

b 定期点検

災害時用放送設備器具や暖房給湯設備点検等は、専門の業者への第三者委託を実施した。

c 設備等の機能を維持

利用者の安全と利便性を確保し、破損や故障が発生した場合は、速やかに対応した。軽微な修繕及び環境整備は、日常点検時や休館日での定期点検時に職員が実施し設備等の機能を維持した。

また、常に安全・安心かつ清潔な施設環境を維持し、専門的な技術を要する業務点検は利用に支障をきたさない休館日に実施し安全な施設運営に努めた。

(ウ) 修繕

設備等の機能を維持し、利用者の安全と利便性を確保し、破損や故障が発生した場合は速やかに対応した。また、指定管理仕様書に定められたリスク分担に従い、札幌市とも調整を行いながら設備修繕を行い、利用者に対して安全・安心な施設環境を維持し、市民へサービスを提供した。

(エ) 廃棄物収集処理

経年劣化等により不要備品となった廃棄物の保管・管理は衛生面に配慮し、適正に処理した。

ウ 防災

(ア) 防災訓練

各 Youth+において、有事に備えた総合（火災・地震）避難訓練を年 2 回、防災コンサルタント会社指導のもと実施した。

また、Youth+宮の沢は、生涯学習センターとの合同による訓練を実施し、避難訓練を含め適正に防火管理を行い有事に備えた。

(イ) 防災訓練の実施状況

施設名	実施内容
Youth+センター	・ 6 月・12 月（総合避難訓練） ・ 2 月（消火器点検）
Youth+アカシア	・ 6 月・12 月（総合避難訓練） ・ 6 月・12 月（消防設備点検）
Youth+ポプラ	・ 6 月・12 月（総合避難訓練） ・ 6 月・12 月（消防設備点検）
Youth+豊平	・ 6 月・12 月（総合避難訓練） ・ 6 月・12 月（消防設備点検）
Youth+宮の沢	・ 8・12 月・3 月（生涯学習総合センターとの合同訓練）

(4) 事業の計画及び実施に関する業務

ア 若者の自立支援事業

(イ) 若者の自立支援に関する情報及び提供ならびに自立支援ネットワークの構築

自立支援機関の開拓と連携について、オンラインを併用し、相談登録者一人ひとりの状況に応じて新たな支援機関を含めて連携、協同を進めた。

自立支援に関する情報提供について、若者支援施設のホームページ上に置くさっぽろ子ども・若者支援地域協議会のページにおいて、構成機関等の情報を一体的に管理し、情報を配信した。また、SNS を活用して、自立支援プログラムの内容や様子、利用者の声を広く発信した。

相談者一人ひとりの状況やニーズに合った情報や機会が提供できるよう、支援者間のつながりを基に必要とするネットワークの構築ができた。

《自立支援ネットワーク》

さっぽろ子ども・若者支援地域協議会を中心とした、自立支援ネットワークの構築を図った。(令和5年度構成団体数:23団体)。団体に関する情報は、ホームページで公開している。また、今年度の自立支援プログラム実施に伴う応援企業の連携数は48社であった。

(ウ) 困難を有する若者の自立に関する相談

総合相談窓口を設け、困難を有する若者とその家族及び関係者からの相談に応じた。また、Youth+センターに複数の有資格者を配置し、適切なアセスメントを行い、進路や就労に向けたキャリア支援のほか、心理、生活面も含めた総合的な相談支援の環境を整えた。活動センターにおいても、Youth+センターと密な連携を図り、チームで相談支援を行った。

a 相談対応時間について

Youth+センターでは、日曜日・祝日・休日及び休館日を除き、電話・来所・SNSでの相談窓口を10時～18時まで開設した。また、活動センターでは、10時～22時の開館時間の中で柔軟に相談対応を実施した。

b 相談環境について

原則個室にて相談を行った。また、相談者の希望に応じて、ビデオ通話やLINE等による相談を実施した。

c 相談者の登録及び相談内容の記録、利用計画書の作成について初回対面相談時に、相談利用規約を紙面にて渡し、説明を行った上で本人の承諾・署名によって、個別カルテを作成し計画的に支援を行った。

【相談実績】

- ・総合相談 1,063 件（前年度比 100%）
- ・新規登録者：310 人（前年度比 88%）
- ・継続相談：6,450 件（前年度比 88%）

相談者の約半数は 10 代もしくはその保護者が占めており、早期支援に向けたアプローチが功を奏した。しかしながら、若年層への支援は多様化、複雑化する相談ニーズへの新たな対応が求められ、個別支援に時間を要している。

総合相談件数は、過去最多の状況が 2 年連続であり、若者支援の一義的な相談窓口として機能した。また、10 代の相談が増加していることから、進路未決定のまま学校を卒業する生徒や中退する生徒の次の居場所としての認知が広がり、切れ目の無い支援体制の構築に貢献した。

（ウ）自立支援プログラム等の実施

グループワークのスキルを有するユースワーカーを中心に、継続的な個別相談と組み合わせ、自立支援プログラムを実施した。

- ・継続相談の実施について、相談者とともに立てた利用計画に基づき行った。
- ・プログラムの実施については、コミュニケーション能力の向上や就労準備プログラムの他、家族の会を実施した。また、新たに少人数制のプログラムを実施し、初回参加者への不安解消に努めた。
- ・相談者の情報共有については、個人情報保護に十分配慮し、利用規約の同意を得た上で相談支援を行った。

【実績】

- ・自立支援プログラム利用者延べ数：8,461 人（前年比 121%）

相談者の増加に伴う支援ニーズの多様化やプログラム参加への不安が高まっている相談者の状況に対して、柔軟に内容や定員、回数などの見直しを行い、企画・運営することができた。

外出や集団活動に苦手意識を持つ相談者が多い中、参加者の不安に作用するプログラムを内容、人数、回数等柔軟に提供することができ、一定の参加者を確保することができた。また、一部のプログラムはオンラインでの参加機会を提供し、相談者の選択肢を広げた。

(エ) 若者の社会体験機会創出事業

企業等開拓員を配置し、応援企業へは職場体験先の提供だけでなく職業講話への協力を依頼し、企業に困難を有する若者の理解を深めていただき、若者を支える地域の基盤づくりを推進した。

【実績】

- ・受入企業獲得数：48 社（前年比 114%）
- ・職場等体験参加延べ人数：858 人（前年比 102%）

相談者の希望を反映できるだけの幅広い業種、職種の体験先企業を確保した。また、必要に応じ新規開拓するための職員のノウハウも確立できた。体験に結び付くまでに至っていない状況にあるが、相談者のニーズに対応できるだけの応援企業は一定数確保できた。

(オ) 中学校卒業者等に対する進路支援事業

進路支援担当者を配置し、市内全中学校や高等学校等を訪問し、事業の主旨や実績等を説明した。学校側の要望を受け、児童、生徒やその保護者への相談対応はもとより、授業や教職員の会議・研修等にも対応した。

【実績】

- ・情報提供生徒数：201 人（前年比 112%）
- ・支援件数：1,400 件（前年比 67%）

昨年度に引き続き学校から個別の生徒情報が多く提供され、支援につながった。情報には1、2年生も含まれることから、次年度の支援につながる関係構築に努めた。

(カ) 自立支援事業の広報

相談部門専用のホームページサイトを開設するほか、SNSにてプログラムの様子を定期的に更新し、最新情報が閲覧・収集できる環境を整備した。

総合相談のうちホームページが情報元であったケースは30.5%（前年度比112%）であり、多くを占めている。ホームページやSNS、各種セミナー等の事業をとおして日常的な広報活動を行った結果、特に学校をはじめとする支援機関からの認知が広がった。

【実績】

- ・セミナー等参加者のべ数：317 人（前年度比 102%）
- ・自立支援事業を中心とした講師派遣参加者
延べ数：2,524 人（前年度比 108%）

自立支援に関するセミナーを行ったほか、国や他の自治体、関係機関等からの講師の派遣依頼にも応じ、自立支援事業含めた札幌市における若者支援の取り組みを広く発信した。なお、内容が多岐に渡るテーマでの依頼が増加した。

(キ) その他の若者の自立支援に向けて必要な事業

若者の社会的自立促進事業

中途退学者等を対象とした高等学校卒業程度認定試験や高等学校再入学等に向けた学習支援を行った。また、通信制高校への入学者が増加していることに注目し、中退予防を目的にレポートを作成、提出管理支援を中学校や家庭児童相談室等に周知し、新たな利用者層の獲得に努めた。

【実績】

- ・学習支援総合相談件数：299 件（前年度比 145%）
- ・新規相談者数：30 人（前年度比 93%）
- ・学習支援実施回数：207 回（前年度比 94%）
- ・参加延べ人数：467 人（前年度比 114%）

通信制、定時制高校卒業に向けた単位取得を目的とした問い合わせの増加によって、総合相談件数が伸びた。また、資格取得のみならず、通信制、定時制高校生にとっての放課後の機能や卒業に向けた学習や単位を補う機会としても機能した。

イ 若者同士の交流促進事業

(ア) 若者同士の交流に関する情報の収集及び提供ならびに若者団体ネットワークの構築

貸室利用団体をはじめ、若者が中心となる団体及び個人での活動を含め、その活動の情報収集を行い、団体等の要望に合わせて、Youth+での情報提供を支援した。

a 若者のロビー利用人数（5館計）：44,512人

令和5年度：37,903人/前年度比：117.4%）と前年度と比較すると、6,609人増加した。

b 利用者証の発行

若者の利用証発行は、14,776人

令和5年度：13,470人 /前年度比：109.7%）と前年度と比較すると1,306人増加した。

a Youth+NET

C 若者登録団体「Youth+NET」数は、1,790団体

令和5年度：1,790団体/前年度比：%)と前年度と比較すると432団体増加した。

《実施状況等》

他団体との連携による食の提供やロビー利用者の意見を取り入れた環境整備などに取り組んだ。

その中で、若者とのかかわりを深め、居心地の良いロビー空間づくりに努め、若者の利用証発行数の増加及びロビー利用者が増加した。

また、貸室利用に伴う若者登録団体について、活動が活発化し利用する回数の増加や新規利用者の増加につながった。

(イ) 若者同士の交流に関する相談

若者の活動に関する相談や交流活動の拠点となるロビーの活性化に向けて取り組んだ。また、Youth+への来所が難しい若者に対して、学校や地域等へのアウトリーチをとおして関係構築を図り、その中で築いた信頼関係を基に潜在的な課題やニーズを早期に発見し対応した。

《具体的な対応》

- ・若者の「やってみたい」の声を形にする中で新たな事業が生まれた。
- ・継続的に相談対応を行なうとともに、若者の声を取り入れたイベントを数多く企画・実施する中で若者が交流する機会を創出した。
- ・ロビー利用から若者の相談に発展し、必要に応じて適切な場所の提案や同行支援を行った。
- ・若者がユースワーカーと日常的な関わりやイベントをとおして、悩み打ち明ける場面から、個別に聞き取り状況の整理を行った。

《実施状況等》

若者とのロビーワークにおいて信頼関係を構築し、気軽に様々な相談が可能な環境を整えた。その結果、若者のニーズを聞き取り「若者のやってみたい」を形にできた。また、ロビーを継続的に利用する若者が増加し、活性化につながった。

その他、課題を抱える若者については、個人の必要な支援へとつなげるほか、必要に応じて自立支援部門と連携し対応した。

※若者のロビー利用人数（5館計）：44,512人（前年度比：117.4%）

令和7年度に向けては、若者の成長とワーカーのスキルアップを図ることを目的に、若者一人ひとりにワーカーが意図を持って介入し、関係構築を図るロビーワークの充実を改めて意識し取り組んでいく。また、日常的なかかわりを深め、個々の課題や困難な状況に陥った際には、相談につながりやすい関係性の構築を図る。また、若者一人ひとりにとって、居心地の良い空間づくりに注力していく。

(ウ) 交流促進プログラムの開催

若者が豊かな社会性を身に付けるために若者からの意見を取り入れ様々な体験の場となるプログラムを実施した。交流事業の分類として、「居場所型」「イベント型」「グループ育成型」と目的別に事業を設定し、若者一人ひとりのニーズに合わせたプログラムを提供した。

【主な事業】

施設名	主な内容
Youth+センター	・居場所型（みんなのイラスト部他 163 回実施） ・居場所拡充型（わかもの寺 32 回実施） ・グループ育成型（リーブル他 22 回実施） ・イベント型（センター祭他 7 回実施）
Youth+アカシア	・居場所型（体育室 FREEDAY 他 82 回実施） ・居場所拡充型（北光いとこんち他 23 回実施） ・グループ育成型（着物部他 87 回実施） ・イベント型（哲学カフェ他 12 回実施）
Youth+ポプラ	・居場所型（百人一首他 67 回実施） ・居場所拡充事業（Youth+ライブラリ 5 回実施） ・グループ育成型（北星学園大学フィールドワーク他 23 回実施） ・イベント型（おでかけ！さんぽぷら他 7 回実施）
Youth+豊平	・居場所型（ゆるスポ他 66 回実施） ・グループ育成型（ハンドメイドクラブ他 49 回実施） ・イベント型（クリスマスイベント他 2 回実施）
Youth+宮の沢	・居場所型（アクティ部 他 49 回実施） ・グループ育成型（宮の沢 Instagram 運用委員会 1 回実施） ・他団体協働型（カフェふうしゃ 11 回実施）

《実施状況等》

事業の定期的な実施により、若者の継続的な利用を促すことができた。

また、ロビーワークをとおして、事業への新規参加者の獲得や、若者のニーズに応えた内容を展開し、気軽に参加できる環境を整えた。

引き続き、若者の声を事業に反映させ、若者とともに作り上げる事業展開を目指していく。

ウ 若者の社会参加促進事業

(ア) 若者の社会参加に関する情報の収集及び提供ならびに地域活動ネットワークの構築

地域等との連携により、若者の社会参加に関する情報を収集し、若者へ提供した。また、地域との連携事業等への参加を促し、若者と地域をつなげ、世代を超えた協働の機会を提供した。

《地域活動ネットワーク》

地域若者サポーターへの新規登録者

登録者数：107 人（令和 5 年度：52 人/前年度比：205%）

《主な実践例》

〔センター〕

地域との協働事業へ積極的に参加し、世代を超えた交流を促進する中で、地域の大人に若者の力を実感していただく機会となった。

〔アカシア〕

北光地区民生委員主任児童委員会、麻生こどもネットワーク会議、北光第 5 分区分内会定例役員会への参加や、地域の子ども食堂とのつながりを創出し、事業実施時には、食の提供をいただいた。

〔ポプラ〕

若者ボランティアとともに子ども食堂の活動の補助を行う中で、子ども食堂を運営する地域若者サポーターと地域の若者についての情報交換を行った。

〔豊平〕

月寒地区の子ども若者に関する関係団体の会議に参加し、居場所拡充事業の活動場所・若者の活動場所の相談を行い様々なアドバイスを受ける機会があった。また、豊平地区の会議では、若者の活動機会の創出を目的に Youth+ の周知を行った。

〔宮の沢〕

障がい者相談支援事業相談室や複合施設入居している企業と新たに連携し、若者の悩みを共有する会や若者の職業体験活動の場を創出した。

《実施状況等》

地域にとって有益な若者の社会参加に関する情報を提供するとともに、若者の活動を地域にPRするなど連携強化を図った。

また、若者の活動を地域につなげる機会を創出し、世代間のつながりを生み出し、若者の力を地域で発揮することができたことで、若者の意識の地域に対する意識の向上につながった。

地域若者サポーターの登録を積極的に働きかけた結果、その認知度も徐々に向上し、新たなサポーターの獲得につながった。その結果、登録人数が倍増したことや協働事業につながった。

引き続き、地域や町内会等と若者や若者団体とのネットワークづくりを促し、若者のニーズと地域のニーズのマッチングに向けて取組んでいく。

また、若者が地域や身近な社会課題に興味関心持ち、社会参加への意識が高め、地域の中で、若者の力を発揮する機会を得られるように、地域等と継続した関係性を維持していく。

(イ) 若者の社会参加に関する相談及び啓発

若者に向けた啓発活動や参加の促しに取り組み、社会参加のきっかけづくりを提供した。

《具体的な取り組み》

- ・大学生世代の若者から、「大学祭の周知」や「活動の発信」についての相談を受け、広報物の掲示やYouth+が事業として取組んでいる「三角山放送局のラジオ」を活用し、地域に発信した。

- ・ロビーワークや貸室利用者へのアプローチをとおして「地域の中で自分たちの活動を広めたい」「地域の方々と交流する場を作りたい」という相談から、地域夏祭り、クリスマスイベントでのボランティア活動等につなげた。

- ・ユースワーク、ユースワーカーに興味関心のある大学生を対象に、ユースワークの基本的理解の学びやグループワークを行い、ユースワークの啓発に取り組んだ。

- ・地域の会議や子ども若者に関する会議等と連携する機会や地域団体との協働事業をとおして、若者の職業体験活動の場を創出した。

<実施状況等>

若者自身の活動の発信やボランティア活動等社会とのつながりに興味関心の高い若者へ活動の場等を提供し、若者の社会参加への意識の醸成につなげた。また、地域団体との協働事業をとおして、Youth+だけでは提供できない活動や体験を創出し、若者の興味関心の幅を拡げることにつなげた。

令和7年度に向けては、若者の主体性を発揮させ地域等との連携強化を図り、地域の団体等と若者が相互に補完し合える関係性の構築に引き続き努めていく。

(ウ) 地域の社会活動への参加促進（社会参画意識向上人材育成プログラム）

地域社会活動に参加する機会を積極的に提供した。

《具体的な取り組み》

〔センター〕・北海道神宮例祭他：12回実施

〔ポ プ ラ〕・東札幌こども食堂他：12回実施

〔豊 平〕・とよひらふれあいまつり他：3回実施

〔アカシア〕・北光七夕まつり他：10回実施

〔宮 の 沢〕・YOSAKOI ソーラン祭り司会進行他：5回実施

《実施結果》

地域事業等へ参加した若者は、積極的に地域の方々とのかかわり持ち自身が楽しむとともに、若者の力を発揮する機会を得られた中で、地域の方から感謝の言葉がけにより社会参加への意欲も増した。また、地域への貢献意識や社会とつながることへの関心が高まった。

令和7年度に向けては、これまでの関係性を大切に地域との連携を深め、若者の思いや力を身近な地域の中で発揮できる機会を創出し、社会参加への意識を高めていく。また、地域等と継続して連携することで、地域の中で若者を受け入れる機運が高まるように働きかけていく。

(エ) 育成プログラムの開催

若者自身の周囲に限らず、地域や社会に目向け興味関心を引き出し、若者の社会参加・参画への興味関心を高め、若者自ら参加・参画意欲を持つ機会を提供した。

目的別による初期体験型、社会意識ボトムアップ型、地域への参加型の育成プログラムを実施した。

【主な事業】

施設名	主な内容
Youth+センター	・ 初期体験型（ロビー向上委員会他 34 回実施） ・ 社会意識ボトムアップ型（新聞掲示他 14 回実施）
Youth+アカシア	・ 初期体験型（若者チャレンジ応援隊 14 回実施） ・ 社会意識ボトムアップ型（新聞掲示他 13 回実施）
Youth+ポプラ	・ 初期体験型（利用者モニタリング 4 回実施） ・ 社会意識ボトムアップ型 （〇〇で社会がみえてくる他 12 回実施）
Youth+豊平	・ 社会意識ボトムアップ型 （「豊平プレストミーティング」1 回実施） ・ 社会意識ボトムアップ型（「ぷち教室」：2 回実施）
Youth+宮の沢	・ 初期体験型（ラジオ部 24 回） ・ 社会意識ボトムアップ型 （ちえりあフェスティバル他 3 回実施）
プロジェクト	・ プロジェクト型 （ユースワーカー養成講座他：1 回 3 日間実施） ・ プロジェクト型及び他団体協働型 （Youth+にじみず：12 回実施）

《実施状況等》

社会課題を自分事として考え、社会とのつながりのきっかけを提供し、社会参加・参画の意識の醸成に努めた。

令和 7 年度に向けては、さらに若者の興味関心のある身近な社会課題等を取り入れ、成功体験を積み重ね若者の自己有用感を高めていく。

(オ) その他の社会参加に関連する事業等

a ボランティアコーディネート事業

当法人他部門が実行委員会事務局を担っている「ミニさっぽろ」、受託事業である「さっぽろ雪まつりつどーむ会場運営」にまちづくり活動におけるボランティアコーディネーターとして参加し、若者のボランティア活動を充実させた。

また、若者が社会貢献をとおして、社会との接点を持ち社会参加・参画意欲を醸成した。また、若者が参加したことで、事業の活性化に貢献した。

b 福祉に理解のある企業との連携

自立支援事業の一環として、若者の自立支援に理解のある企業による清掃業務のジョブ・トレーニングのサポート（作業指導）をいただいた。当法人の取り組みとして障がい者雇用を推進した。また、就労先への協力を仰ぎ、連携をさらに深め確保した。

c 若年無業状態の若者の仕事体験

自立支援事業の一環として、「若者の社会体験機会創出事業」で記載したほか、当法人が受託したイベント（さっぽろ水道フェスタ・札幌市下水道科学館フェスタ等における会場案内業務）や Youth+センターや Youth+ポプラにおける清掃業務を若者の職業訓練事業を実施した。

また、就労に向けて挑戦しやすい場を開き、次のステップにつなげ若者の就労への意欲を促した。

エ 若者の社会的自立に関する調査・研究事業

(ア) アンケート調査

利用証発行時に、「若者の今（意識）」を知る機会として意識調査を実施した。

《アンケート内容》

- ① 若者自身の今について
(自分らしさ、自身の変化など)
- ② 若者自身の意欲について
(自身の意欲)
- ③ 若者自身の周囲の環境
(周囲の協力、心理的安全性など)
- ④ 結婚観について
上記について調査を行った。

一部の設問は、過去同様の項目を用いてアンケートを実施、当時の若者の現状と現在の若者の現状を比較し、若者の傾向について運営協議会で分析報告を行った。

《実施状況等》

調査アンケートをとおして、若者の生活や理的な側面に関する理解や若者のニーズ、支援の必要性についての考え方等が深まった。今後、若者とのかわりや施設運営に生かしていく。

(イ) 他都市との連携

ユースワーカー協議会に所属する、横浜市・京都市・神戸市、名古屋市の政令指定都市の団体と連携し、オンラインを用いた交流サロンや職員向けの学習会、意見交換会を実施した。

(ウ) 研究会への参加

昨年度に引き続き、法政大学平塚科学研究会へ実践者として参加し、対面及びオンラインを用いた研究会にて若者支援における場の価値について協議を行った。

オ さっぽろ若者支援ネットワークの構築事業

(ア) 居場所拡充事業（ミニ Youth+）

地域の中に Youth+以外の居場所機能を設け、継続的に運営した。
地域における協力者とともに、様々な課題を抱える若者や居場所を必要としている若者に、安心、安全な居場所を提供し、新たな出会いやつながりの場を創出した。
また、独自の居場所づくり評価尺度による目標設定を定め、地域との協働型ユースワークの拡大に努めた。

(イ) 学校教育機関との連携（学校内ユースワーク）

困難な状況に陥る前の未然防止や早期発見を目的に在学中から切れ目の無い支援体制を構築した。

その他、定時制や単位制、通信制などの高校を中心に訪問し、進路指導や保健支援部の教職員と協働し、生徒への個別支援を実施した。また、Youth+職員の専門性を生かし、生徒同士の交流や校内ユースワークを展開しコーディネートを行った。

連携校との積極的ななかかわりにより、生徒との関係構築が進み、Youth+への来館につながった件数は目標を上回った。また、Youth+の機能を柱に置き、定時制、通信制の高校を対象に、サポートステーション・ヤングケアラー相談サポート事業・リビングカーが連携しアプローチをかけた結果、その後のYouth+の利用やヤングケアラー当事者となつがるなど、困難な状況を抱える若者の支援に貢献した。また、教職員との情報共有も順調であり、新たな学校からの授業の依頼も増加していることからユースワークや Youth+に対する認知度が向上してきている結果と捉えている。

(ウ) 地域へのアウトリーチ（リビングカーの活用）

ユースワークをとおして課題を抱える若者に早期に出会い、必要な支援につなげていくことを目的にリビングカー（移動型居場所）を活用し、中島・もみじ台・真駒内に定期的な居場所機能を設けた。また、清田区の児童会館を中心に巡回し、若者のニーズ調査や気になる若者の情報収集を行った。

その他、当法人で受託している「札幌まなびのサポート事業」実施会場や学校内ユースワーク事業・自立支援部門等と連携によるリビングカー（移動型居場所）活用を行い、若者との関係構築を図り、Youth+の認知度を広げた。

また、若者の居場所の創出や支援を必要としている若者を早期に介入し、必要な 事業や他団体につなげることができた。その他、年間をとおして、様々な場所へのアウトリーチをとおして、多くの若者と出会い、交流が生まれた。

(エ) こども若者の居場所いところ

生活困窮や社会的孤立状態にあり、家庭機能の補完が必要なこども・若者、その家族を支える場づくりや家庭からの自立を必要とする若者の自立を目的にいとこちでの継続的な支援を行った。

また、生活体験及び多種多様な体験活動の機会やリビングカーを活用した物資等の提供を行った。

<実施状況等>

一般社団法人ソーシャルペダゴジーネットとの協働により、若者と継続的につながり、必要とするサポートやケア等をとおして関係構築を深めた。

(オ) ヤングケアラー等の複雑化する困難の対応

当法人のこども・若者部門他セクションが受託したヤングケアラー相談サポート事業に連携して取り組んだ。家事や介護を担う 18 歳以下のヤングケアラー当事者への支援に取り組んだ。電話や LINE による相談及び定期型サロン、出張型サロンを開催した。

本人との関係構築を図り、必要に応じた支援を継続的に行った。また、若者支援施設の連携先である学校等からの生徒情報を得る中で、必要な生徒への支援等につなげた。また、交流サロン開催時には、交通事情から参加に至らないケースもあることから、必要に応じて自宅から会場までの送迎支援を行った。

【実績】

- ・出張型サロン（Youth+会場）：5 回・参加者：48 人
- ・若者支援施設内対面相談：120 回

《実施状況等》

自身の思いを伝えることができる若者が増えた。また、自分の時間を有効に過ごし、息抜きの間となっていることが実感できた。

その他、交流サロンへの同行支援を行う中で、本人が現在おかれている状況の把握やニーズ、困りごとを知る場でもあり、必要なタイミングで支援につなげることができた。

(カ) 市民との協働

自立支援事業、交流促進事業、社会参加促進事業等いずれの事業においても、常に市民との協働、連携を図ることを意識し取り組んだ。基本姿勢を職員に定着させた。

(キ) さっぽろ青少年女性活動協会事業の活用

アウトリーチ推進事業（カフェ部事業及びフードパントリー事業）においては、子どものくらし支援コーディネーターや児童会館、こども事業課等他課職員と連携を行い、学齢・児童福祉法のはざまを埋める見守り活動をさらに強化した。その他、児童会館中・高校生夜間利用ふりーたいむや当法人で受託している札幌まなびのサポート事業会場の訪問をとおして、今後の居場所の一つとして Youth+ の認知度を高める機会を提供した。

当法人のこども・若者部門以外の企画事業課、野外活動課など他セクションと協働し、定時制高校と連携し事業を展開した。また、令和5年度の施行実施を経て、札幌市児童相談所から一時保護所特別活動支援事業を受託し、子どもたちへさまざまな室内プログラムを提供した。

その他、若者支援施設と利用対象者が重なる市民参画課、人事企画課などと連携を図り、若者にとって有益な事業を展開した。

《実施状況等》

連携することにより得られる効果を最大限に発揮し、横断的な事業連携をとおして、若者が抱える課題や社会課題解決の一助になったと捉えている。

また、当法人の単一のセクションでは成し得ない業務を連携し取り組むことで、社会のニーズに応えることができた。

カ 数値目標

【数値目標達成状況】

No.	項 目	目標数値	実績
①	若者等登録者数	16,000 人	14,776 人
②	若者等登録者の延べ利用人数	200,000 人	212,215 人
③	新規に相談をうけた自立支援登録者数	400 人	310 人
④	自立支援登録者のうち進路決定者	345 人	291 人
⑤	交流促進プログラムに参加した若者の人数	5,000 人	10,395 人
⑥	社会活動及び育成プログラムに参加した若者の人数	600 人	2,585 人

(5) 施設利用に関する業務

受付業務

施設利用についての案内、利用証の発行、貸室利用、備品の申込受付、苦情や問い合わせ等の業務を適切に行った。

ア 利用実績

自立支援事業、交流促進事業、社会参加事業、ロビー利用・貸室利用

(ア) Youth+センター

<利用実績等>

交流促進事業・ロビー利用が増加した。貸室利用者を含め、日常的なかかわりを持つことで継続利用とつながった。

(イ) Youth+アカシア

<利用実績等>

ロビーでの積極的なユースワークにより若者の要望をキャッチした事業展開へとつなげたことにより、全体の参加人数が前年度を上回った。

(ウ) Youth+ポプラ

<利用実績等>

全体の参加人数が昨年度を上回ったが、特に社会参加促進事業では、イベント広場での主催事業を複数回開催したことが増加につながった。

(エ) Youth+豊平

<利用実績等>

若者たちの要望を踏まえた事業展開により、大幅に昨年度を上回った。貸室利用団体へは、イベント出演依頼など新たな若者とのつながりを創出した。

(オ) Youth+宮の沢

<利用実績等>

若者の声から事業実施したが、回数や内容を厳選した結果、参加者数の減少となった。貸室利用は、ロビー利用から活動の幅の広がりから増加した。

イ 有料施設利用状況

(ア) Youth+センター

<利用実績等>

貸室利用者との接点を意識的に持ち、利用者にとって利用し易い環境を整えた。また、貸室利用以外にも事業参加等への促しを行う中で、継続的な利用につながるよう働きかけ関係構築を図り、貸室全体的に稼働率が上昇した。また、若者の貸室利用者へ事業の案内や参加促し関係構築を図り、継続した利用につなげた。

▽ 不承認 0 件、取消 6 件（うち還付 6 件）、減免 0 件

(イ) Youth+アカシア

<利用実績等>

全貸室において昨年度の稼働率を上回った。近隣の高校や大学のサークル活動による利用が多く見られた。

貸室利用者の要望を聞き取り、可能な範囲での備品等の導入を行い、貸室の利用促進につなげた。また、貸室の利用前後のミーティングや個人の活動でのロビー利用の案内を行い、貸室利用者との関係構築を図った。

また、Instagram を活用した貸室利用団体の紹介などをおして、利用者の信頼醸成へとつなげた。

▽ 不承認 0 件、取消 0 件（うち還付 0 件）、減免 0 件

(ウ) Youth+ポプラ

<利用実績等>

若者団体のよさこいやダンスの練習での利用が多く、また、継続利用に加え新規団体の利用が増えたことで昨年度より利用率が増加した。

活動の前後にロビーを利用する若者が多く、飲料等食提供をきっかけにコミュニケーションの機会を増やすとともに、ヒアリングによる環境改善を行い、継続利用につながるよう関係構築を図った。

また、若者の貸室利用者と食提供などでコミュニケーションを図り、リピーターへとつながる関係性作りを行った。

▽ 不承認 0 件、取消 2 件（うち還付 2 件）、減免 0 件

(エ) Youth+豊平

<利用実績等>

各活動室ともに稼働率が昨年度よりも上回った。特に個人練習を目的とした時間貸し利用が若者・一般問わず増加したことがその要因として挙げられる。その他、モニタリング事業や利用者満足度アンケートの結果を基に貸室環境の整備に努めた。

また、貸室利用希望の問い合わせに丁寧に対応することでリピーター層の獲得に努めた。また、個人練習など少人数・短時間の利用も可能なことを窓口で提案した。

▽ 不承認 0 件、取消 1 件（うち還付 1 件）、減免 0 件

(オ) Youth+宮の沢

<利用実績等>

ロビー利用の若者に活動場所として貸室を勧めるなどコミュニケーションを図ることで、ロビー利用から貸室利用へと幅を広げるきっかけを提供したことで、活動室 A・B の利用の増加につながった。

一方で、これまで利用していた音楽活動の団体規模が大きくなったことで、活動場所を他へ移した影響から音楽スタジオの利用が減少した。

また、ロビーの利用者との聞き取りやかかわりから、貸室利用の案内も行う活動の選択肢が広がるように提案した。

▽ 不承認 0 件、取消 3 件（うち還付 3 件）、減免 18 件

ウ 管理業務に付随業務

広報業務

(ア) 施設の PR 及び情報提供

a X・Instagram・Facebook の活用

若者の使用している SNS 調査や利用者アンケートの結果から、新たに Instagram を立ち上げ、情報発信を行った。主に、若者施設の活用方法やイベントの情報等を発信し、利用を促した。

また、Youth+NET 団体の貸室利用方法を発信し、貸室事業の利用拡大を図った。

《実施状況等》

Instagram を取り入れ、様々な情報発信を行ったことにより、主に Instagram を利用する若者に向けて、より情報を届けることができた結果、Youth+やイベント等に興味を持ち、施設利用へとつながった。

b コミュニティ FM 活用

(a) 西区のコミュニティ FM「三角山放送局」

隔週水曜日に各 Youth+の若者と共に出演し、大学での学校祭での催し物の宣伝やサークル活動の紹介の他、若者がコーナーを企画し、進行する等、広報活動や若者の社会参加に取り組んだ。

(b) 豊平区コミュニティ FM「FM アップル」

毎月第4金曜日に若者と共に施設紹介や事業の周知を行った。
コミュニティ FM2 局において、若者団体や個人の若者と共に出演することで、若者の活動及び Youth+や事業の周知につながった。

C 事業広報

地下鉄ポスター掲示・各 Youth+イベントカレンダー・ホームページ・SNS を活用し、事業広報を行った。その他、ユースワーカーがロビーワークの中で、若者の興味関心を引き出し、個々に合わせた事業の案内等を行った。また、リーフレットは、若者の興味関心に応じた施設利用等について、より分かりやすい内容にリニューアルし、デザイン等を一新した。

《実施状況等》

広報物の閲覧をきっかけに、新規の施設利用登録に至った。また、新たに立ちあげた Instagram を積極的に活用することで、若者世代に情報が届きやすい環境を設定し Youth+への興味関心を高めることにつなげた。また、地下鉄駅掲示板にてポスターを2回掲示し、市民や若者に対して Youth+の認知度の向上に向けて活用した。今後に向けても効果的な広報に取り組んでいく。

d ホームページのウェブアクセシビリティ

ウェブアクセシビリティの研修を受講し、誰もが見やすいホームページ管理に向けて、理解を深めた。

札幌市若者支援施設及びさっぽろ子ども・若者支援地域協議会ホームページについては JIS X 8341-3:2016 のウェブアクセシビリティ適合レベル AA 及び一部 AAA に準拠し、適正に管理した。

エ その他若者支援施設の管理業務に付随する一切の業務

(ア) 利用促進に向けての施設の有効活用

利用者との関係構築を図るとともに、貸室等の問い合わせ等には丁寧に対応し継続利用につながるように努めた。また、利用者登録時には、施設に完備しているインターネット環境への接続を案内し利用者の利便性に配慮した。そのほか、若者からの意見を聞く機会を設け、利用者の要望に応え貸出物品の見直しや貸し出し方法の工夫を図り利便性を高めた。

今後に向けては、午前・午後の利用率が低い時間帯の利用の促進に向けて引き続き一般市民に広く、施設を周知し貸室の稼働率を高め有効活用が可能となるように取り組んでいく。

(イ) 札幌市内の企業の活用について

修繕業務、役務業務及び物品購入等において市内の事業者へ積極的な依頼や物品購入を進め、市内企業の活用にも努めた。また、業務発注の際には、特定の業者への偏りがないように配慮し、市内企業を積極的に活用し各業務を適正に履行した。

(ウ) 個人情報の安全な管理体制

当法人における個人情報保護に関する要領及び規定に基づき、適切な取り扱いのもと、事業の適切かつ円滑な運営を図り、個人の権利利益の保護に務めた。また、Youth+センター職員（2名）が個人情報保護士の資格を保有していることから、Youth+特有の個人情報の取扱いに関する研修を追加で実施した。有資格者増員に向けた取り組みを進めている。

日常的に個人情報の取り扱いが発生していることを常に意識し、職員の意識向上・管理体制を維持した。

2 札幌市若者支援施設自主事業の実施状況

(1) 飲料の販売

ア ロビーカフェ事業

若者支援施設の設置目的を踏まえ、承認要件を満たした計画を実施した。
各施設、飲料販売の売り上げが前年度よりも下がる結果となった。

豊平で導入した軽食付き自動販売機は、利用者から大変好評であり売り上げは順調に伸び、販売手数料収益は増加した。

その結果を踏まえ、また、利用者ニーズを取り入れ、令和7年度からは、豊平を含めた4館（センター、アカシア、ポプラ、豊平）で軽食付き自動販売機を導入する。

売上 466 千円 （イ）利用者数（延べ）3,066 人

〔内訳〕 (千円) (人)

施設名	売上額	利用者数 (延べ)
Youth+センター	187	1,229
Youth+アカシア	186	1,319
Youth+ポプラ	73	518
合 計	466	3,066

イ 飲料自動販売機の設置

(ア) (Youth+宮の沢)

売上 244 千円

〔内訳〕 (千円)

項目	金額
売上手数料	184
電気設置料	60
合 計	244

(イ) (Youth+豊平)

売上 302 千円

〔内訳〕 (千円)

項目	金額
売上手数料	240
電気設置料	62
合 計	302

(2) 地域若者サポートステーション事業

「さっぽろ若者サポートステーション」〔厚生労働省委託事業〕

(委託事業費 52,241 千円)

キャリアコンサルタントや社会福祉士の常勤スタッフのほか、公認心理師などの専門家を非常勤として配置し、Youth+センターの指定管理事業との協働によって相談体制を強化して実施した。

【対象地域】・石狩振興局管内・空知振興局管内・小樽市

【実績】・新規登録件数：216 人（前年度比 79%）

・就職等件数：128 人（前年度比 96%）

*サポステ事業該当数値のみを記載

これまでの実績と事業規模から北海道労働局より「各サポステの中心と先導的な役割」を求められており、実際に学校連携やプログラム企画のノウハウを道内外のサポステに提供し、高い評価を受けている。

(3) 白石区複合庁舎まちづくりイベント広場等管理運営

〔札幌市白石区役所委託事業〕（委託事業費 3,535 千円）

就労支援作業所のハンドメイド作品の販売や展覧会、ギターの弾き語りやミニライブなど、市民の自主的な活動の場を提供した。

主催事業では、地域の商店街とともに、Youth+の利用者の作品の販売コーナーやアクセサリ作りの体験コーナーなど出展する他、若者ボランティアとハロウィンイベントを開催し、若者と地域がつながる機会を提供した。

イベント広場を利用した団体がリピーターとして定着し、また、新規団体の利用が増加したことにより、賑わいの創出につながった。

(4) その他外部からの受託事業

自立支援事業

その他講師派遣等：131 件（1,210 千円）

札幌市内のみならず全国各地の研修会等において、オンライン開催含めて講師を務めた。

【実績】

① 講師派遣

札幌市（児童相談所、市・区要保護児童対策地域協議会担当者研修、市教育委員会保護者交流会、消費者センター相談員研修）、他都市（恵庭市、苫小牧市、仙台市、吹田市、萩市、宇部市、北海道、栃木県、茨城県、広島県、長崎県等）、高校（教員研修、PTA 研修）、大学（授業）、ウイメンズクラブ等

② 会議・委員就任

札幌市（子どものための相談窓口連絡会議、中島中学校学校関係者評価会議、市立札幌大通高校学校評議員会、星友館中学校評議員会）、他都市（道就職氷河期世代チーム支援会議、道就職氷河期世代活躍支援プラットフォーム会議、全国青少年相談研究集会企画運営委員会、虐待防止学会北海道委員会）、こども家庭庁等

③ 視察・見学

中学校・高校・専門学校・大学教職員、区家庭児童相談室、区保健センター、市教育委員会、他都市（旭川市、苫小牧市、宇都宮市、八王子市、浜松市、磐田市、西条市、大田区、宮城県等）、厚生労働省等

子ども・若者を取り巻く課題や若者の居場所づくりに関する内容の依頼が多くあった。他都市の政策や新たな取り組みに関わる助言を求められることも多く、実績が認められた結果である。

3 利用者の満足度

利用者満足度アンケートの結果

施設、職員への満足度調査(セルフモニタリング)項目、自由記述項目により、特に管理面で改善を要する箇所についての情報収集を行い、施設の利便性を高めることを目的に実施した。一般団体・若者団体と支援対象を分けた集計を行い、各々の満足度について調査した。

(1) 実施方法

- ・調査期間：令和6年11月28(木)～12月22日(日)の25日間
- ・調査方法：利用時の窓口配布、終了時回収の留置調査法
- ・質問項目：貸室利用、貸室申込について、職員の接遇など全6問
その他、自由記載欄を設け、具体的な意見等をいただいた。
- ・調査対象：各 Youth+の有料貸室を利用する一般及び若者団体代表
- ・期間利用団体数：591 団体
- ・有効回答団体数：518 団体（回収率：88%）

(2) 結果概要

※詳細については、「利用者の満足度利用者アンケートの結果」参照。

(※いずれも、「満足」「やや満足」の合計)

項 目	満足度
システム満足度	78.8%
部屋維持満足度	84.1%
職員接遇満足度	90.6%
総合満足度	92.0%

(3) 利用者からの意見・要望とその対応（一部対応例）＜一部再掲＞

施設名	意見と対応
Youth+ センター	《要望》各部屋にモップなどの清掃用具などを常備して欲しい 《対応》必要な時は、スタッフまで声を掛けていただくようお願いした。
Youth+ アカシア	《要望》空調設備を整えて欲しい 《対応》暑さ対策として、冷風機や扇風機を用いた対策をしている。今後も暑さ対策を検討していくこと、また、施設設備についてご理解いただけるようお願いした。
Youth+ ポプラ	《意見》床に綿埃が落ちていることがあった 《対応》気になる箇所は、スタッフに声を掛けていただき、早急に対応させていただくことをお伝えした。
Youth+ 豊平	《要望》駐車スペースを増やして欲しい。 《対応》駐車スペースに限りがあるため、公共交通機関での来館や満車の場合は、近隣パーキングを利用させていただくよう、施設周辺コインパーキングマップをお渡しし理解いただいた。
Youth+ 宮の沢	《要望》各部屋で wi-fi が使えるようにして欲しい 《対応》ロビーに free wi-fi を設置している。必要に応じてロビーでインターネット接続していただくようお願いした。また、各部屋には、機材の導入や施設改修、札幌市への相談も必要なことから早急な対応は難しいことをお伝えしご理解いただいた
Youth+ 全施設	《要望①》支払期限を延ばしてほしい。 《対応》施設条例、施行規則を伝え、予約から 4 日以内での支払いを改めてお願いした。 《要望②》意見：支払後のキャンセル対応を行ってほしい。 《対応》施設条例、施行規則を伝え、予約から 4 日以内での支払いを改めてお願いした。

令和6年度 札幌市若者支援施設館内修繕等一覧

別紙1

項目		施設名	金額(円)	完了日
1	正面玄関埋込ドアクローザー交換業務	豊平若者活動センター	99,000 円	4 月 30 日
2	エアコン修繕業務	豊平若者活動センター	126,500 円	6 月 28 日
3	事務室ドアノブ交換業務	豊平若者活動センター	48,364 円	10 月 9 日
5	パコティンヒーター修理作業	豊平若者活動センター	165,000 円	11 月 19 日
5	温水2次循環ポンプ漏水修繕業務	豊平若者活動センター	52,800 円	1 月 16 日
合計			491,664 円	

札幌市若者支援施設運営協議会設置要綱

別紙 2-1

(目的)

第1条 若者支援施設の指定管理者である公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会は、若者支援施設における管理業務の状況の報告、管理運営水準の維持・向上に向けた協議のほか、若者支援方策の調査研究や全市的な事業を企画するうえでの方向性の検討、事業の評価点検等を行うため、札幌市若者支援施設運営協議会（以下「協議会」という。）を設置する。

2 協議会の組織及び運営について必要な事項は、札幌市と協議のうえ定める。

(協議事項)

第2条 協議会は、以下に関する事項を協議する。

- 1 札幌市若者支援施設管理業務協定書に定める業務の報告に関する事
- 2 若者支援施設の管理運営上の問題点や改善に関する事
- 3 若者支援施設の管理運営に係る各種規程、要綱、マニュアル等を新たに作成する場合の概略に関する事
- 4 札幌市若者支援施設指定管理者業務仕様書において協議会での協議を必要とする旨が記載されている項目に関する事
- 5 若者支援施設の市民サービスや管理水準の維持向上に向けた取組に関する事
- 6 若者支援方策の調査研究や全市的な事業を企画する上での方向性の検討に関する事
- 7 若者支援施設における事業の評価点検に関する事
- 8 その他、若者支援施設におけるソフト事業全般に関する事

(構成)

第3条 協議会は、札幌市、若者支援施設統括責任者、若者支援施設各館の責任者、利用登録若者団体、自立支援機関・登録若者団体・地域団体、外部有識者等の委員で構成する。

(任期)

第4条 委員の任期は2年とし、再任を妨げない。

2 任期途中で退任した委員の任期は前任委員の残任期間とする。

(委嘱)

第5条 委員は、公益財団法人さっぽろ女性活動協会理事長が委嘱する。但し、札幌市職員については除く。

(開催)

第6条 協議会は、指定期間中年3回以上開催する。

- 2 協議会は、委員の半数以上が出席しなければ、会議を開くことができない。
- 3 協議会の内容は記録し、その要旨を札幌市に確認する。また、必要に応じてその要旨を施設内に掲示する。

令和6年度 札幌市若者支援施設運営協議会 委員等名簿

別紙2-2

No	名 前	所 属	構 成
1	姉崎 洋一	北海道大学 名誉教授	外部有識者
2	荒木 奈美	札幌大学地域共創学群 教授	外部有識者
3	高嶋 真之	藤女子大学人間生活学部人間生活学科 講師	外部有識者
4	大倉 はづき	星槎国際高等学校 札幌北センター長	地域団体
5	今井 香奈江	NPO法人麻生キッチンりあん 理事長	地域団体
6	日向 洋喜	NPO法人E-LINK 代表理事	地域団体
7	岩崎 祥太	Youth+センター利用者 利用登録若者団体	利用登録若者団体
8	引地 志保	子ども未来局子ども育成部子どものくらし・若者支援担当課長	札幌市
9	松田 考	指定管理者 若者支援事業 部 長	統括責任者
10	小林 剛至	指定管理者 若者支援事業 課 長・Youth+センター館 長	課・館の責任者
11	山名 徹	Youth+センター 係 長	自立支援統括者
12	松本 弘美	Youth+センター 係 長	事業等責任者
13	吉川 陽介	Youth+宮の沢 係 長	管理等責任者
14	大口 智	Youth+アカシア 館 長	施設責任者
15	濱中 亮介	Youth+ポプラ 館 長	施設責任者
16	山口 亜希	Youth+豊 平 館 長	施設責任者
17	安江 真人	Youth+宮の沢 館 長	施設責任者

(所管部局)

1	中島 千博	子ども未来局子ども育成部子どものくらし・若者支援担当係長	札幌市
2	渡邊 貴志	子ども未来局子ども育成部子どものくらし・若者支援担当	札幌市

(事務局)

1	佐藤 直美	Youth+センター 主 任	自立支援担当者
---	-------	----------------	---------

(順不同/敬称略)



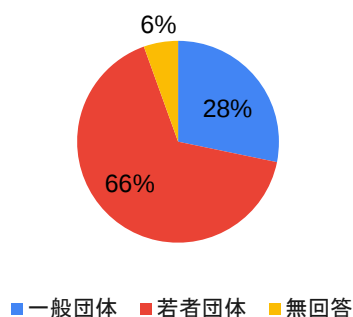
令和6年度 Youth+ 窓口アンケート集計グラフ

・期間中の利用団体数：591 団体 ・うちアンケート回収数：518 団体 ・回収率：88.0 %

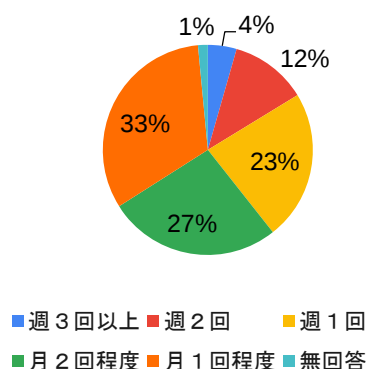
○システム満足度：満足 74.9% 中間20.4% 不満4.7% (若者：満75.1% 一般：満70.8% 無回答：満82.1%)
 ○部屋維持満足度：満足 84.0% 中間12.6% 不満3.4% (若者：満85.8% 一般：満77.1% 無回答：満89.3%)
 ○職員接遇満足度：満足 89.9% 中間 8.5% 不満1.6% (若者：満91.4% 一般：満84.7% 無回答：満89.3%)
 ○総合満足度：満足 90.1% 中間 8.7% 不満1.2% (若者：満91.4% 一般：満84.7% 無回答：満92.9%)

※いづれも、満足：「満足」「やや満足」の合計

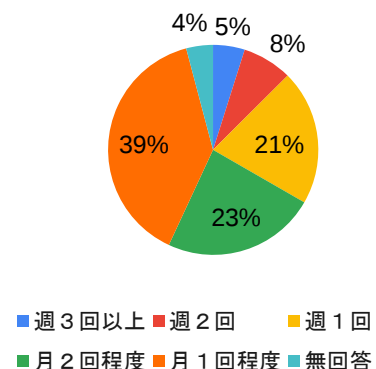
Q1.ご利用区分を お知らせください



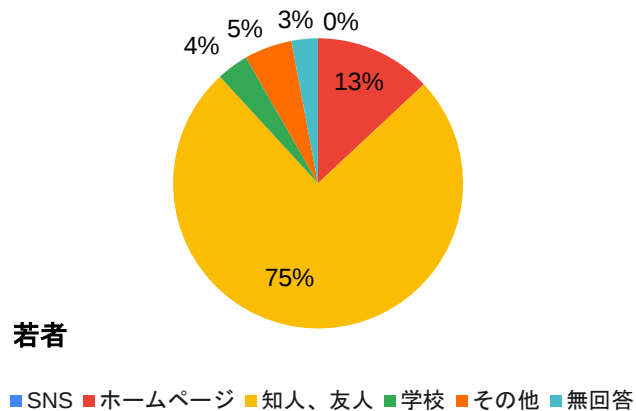
利用頻度：若者



利用頻度：一般

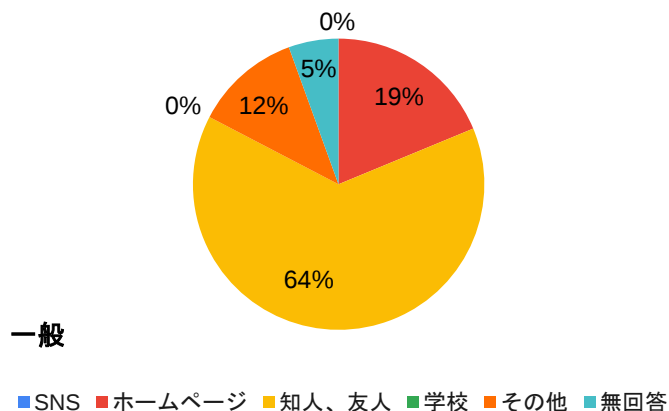


Q1.初めて施設を知ったきっかけは何でしょうか



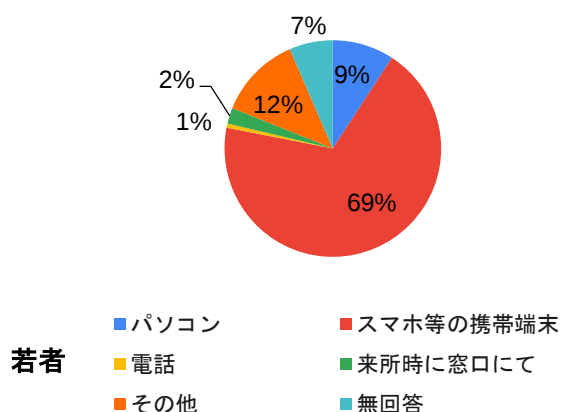
若者

Q1.初めて施設を知ったきっかけは何でしょうか



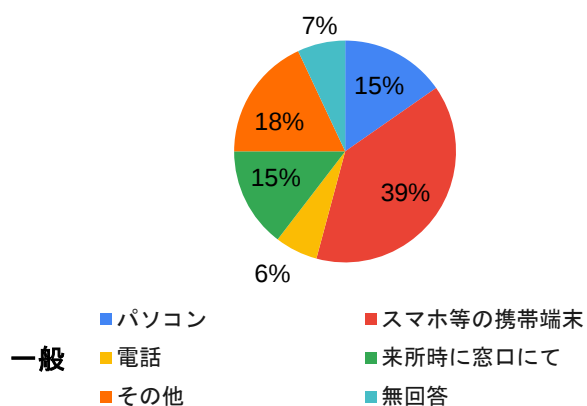
一般

Q2.空き状況をどのように確認していますか



若者

Q2.空き状況をどのように確認していますか

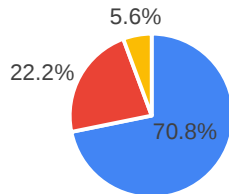


一般



令和6年度 Youth+ 窓口アンケート集計グラフ

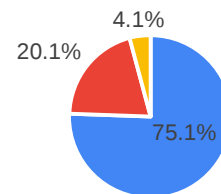
Q3. 利用の申し込みシステムは
分かりやすいですか？



若者

■ 満足 ■ どちらともいえない ■ 不満

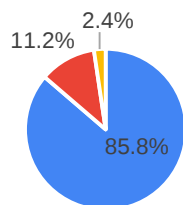
Q3.利用の申し込みシステムは
分かりやすいですか？



一般

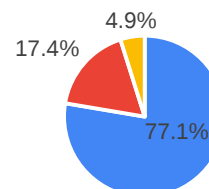
■ 満足 ■ どちらともいえない ■ 不満

Q4.部屋や設備は
良好に維持管理されていますか？



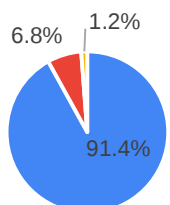
■ 満足 ■ どちらともいえない ■ 不満

Q4.部屋や設備は良好に
維持管理されていますか？



■ 満足 ■ どちらともいえない ■ 不満

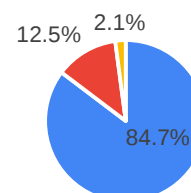
Q5.職員の対応（待遇）
はいかがですか？



若者

■ 満足 ■ どちらともいえない ■ 不満

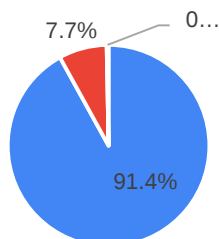
Q5.職員の対応（待遇）
はいかがですか？



一般

■ 満足 ■ どちらともいえない ■ 不満

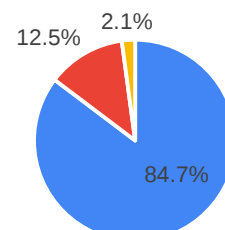
Q6.施設利用総合満足度は？



若者

■ 満足 ■ どちらともいえない ■ 不満

Q6.施設利用総合満足度は？



一般

■ 満足 ■ どちらともいえない ■ 不満

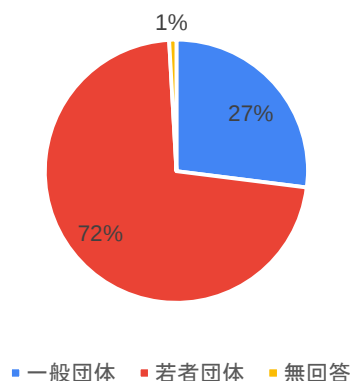


令和6年度 Youth+センター 窓口アンケート集計グラフ

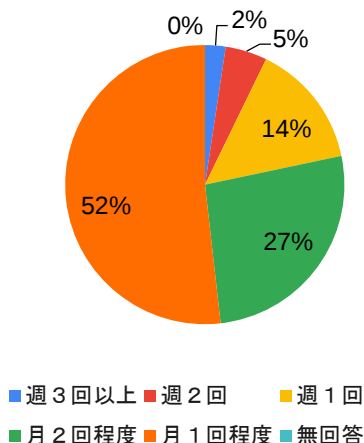
○システム満足度：満足 73.0%	中間20.0%	不満7.0%	(若者：満75.9%	一般：満64.5%	無回答：満100.0%)
○部屋維持満足度：満足 84.3%	中間13.9%	不満1.7%	(若者：満86.7%	一般：満77.4%	無回答：満100.0%)
○職員接遇満足度：満足 90.4%	中間 7.8%	不満1.7%	(若者：満94.0%	一般：満80.6%	無回答：満100.0%)
○総合満足度：満足 89.6%	中間 9.6%	不満0.9%	(若者：満91.6%	一般：満83.9%	無回答：満100.0%)

※いづれも、満足：「満足」「やや満足」の合計

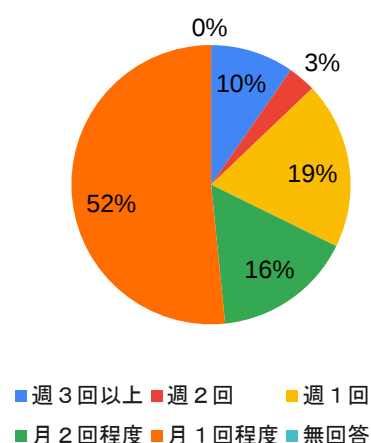
Q1.ご利用区分をお知らせください



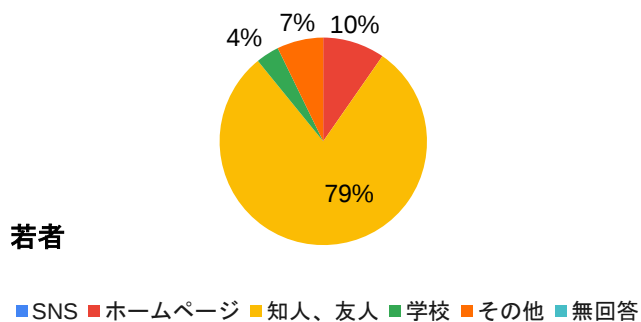
利用頻度：若者



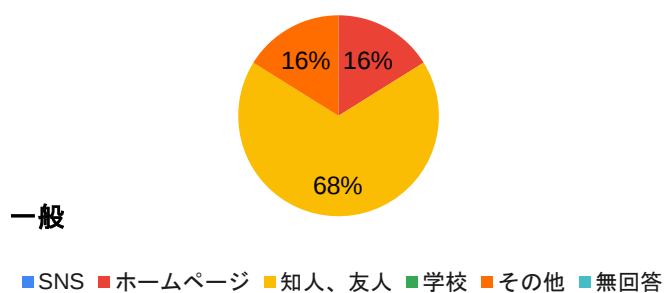
利用頻度：一般



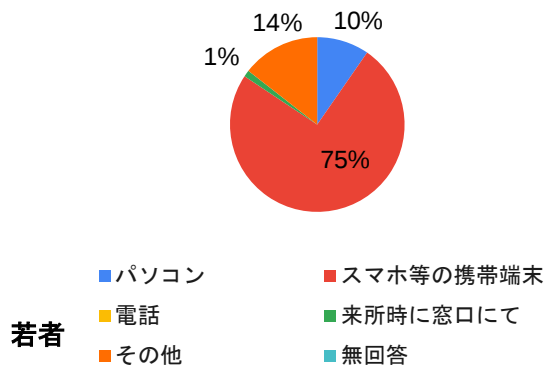
Q1.初めて施設を知ったきっかけは 何でしょうか



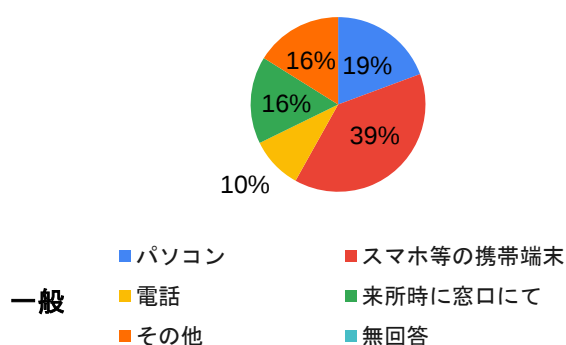
Q1.初めて施設を知ったきっかけは 何でしょうか



Q2.空き状況をどのように 確認していますか



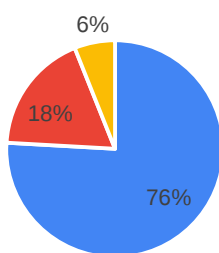
Q2.空き状況をどのように 確認していますか





令和6年度 Youth+センター 窓口アンケート集計グラフ

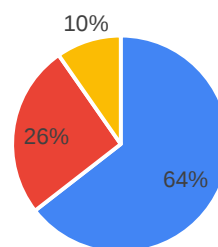
Q3.利用の申し込みシステムは
分かりやすいですか？



若者

■ 満足 ■ どちらともいえない ■ 不満

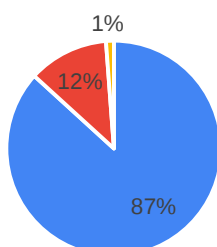
Q3.利用の申し込みシステムは
分かりやすいですか？



一般

■ 満足 ■ どちらともいえない ■ 不満

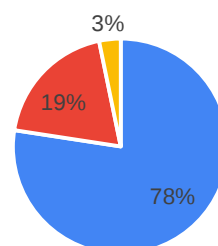
Q4.部屋や設備は良好に
維持管理されていますか？



若者

■ 満足 ■ どちらともいえない ■ 不満

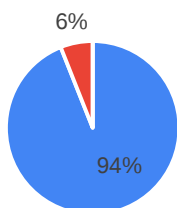
Q4.部屋や設備は良好に
維持管理されていますか？



一般

■ 満足 ■ どちらともいえない ■ 不満

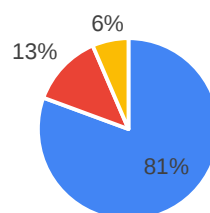
Q5.職員の対応（接遇）
はいかがですか？



若者

■ 満足 ■ どちらともいえない ■ 不満

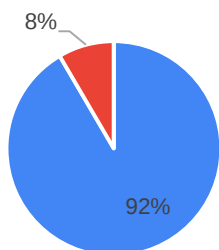
Q5.職員の対応（接遇）
はいかがですか？



一般

■ 満足 ■ どちらともいえない ■ 不満

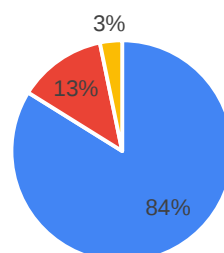
Q6.施設利用総合満足度は？



若者

■ 満足 ■ どちらともいえない ■ 不満

Q6.施設利用総合満足度は？



一般

■ 満足 ■ どちらともいえない ■ 不満



令和6年度 Youth+センター（若者支援総合センター）窓口アンケート自由記述

【1】備品について <ご意見>

- ①クイックルワイパー等を常備していただけたら嬉しいです。
- ②ホワイトボード、机（1～2台）が常備されるようになって便利になりましたが、活動室4・5も同様にしてほしいです。

【1】備品について <回答>

- ①必要な時は、スタッフまで声をお掛けください。お貸出しさせていただきます。
- ②ロビーに、貸し出し用のホワイトボードや机、椅子を置いております。
必要に応じ、ご自由にお持ちいただいてご利用いただくようお願いいたします。

【2】施設・設備について <ご意見>

- ①部屋が少し暑い時がありました。温度調節が出来たら嬉しいです。
- ②活動内容によって、音が出るなどがあります。会議で使用していることもあるので、音響（防音）の工夫が必要かと思う時があります。

【2】施設・設備について <回答>

- ①お部屋により冷暖房調整ができますので、室温を変えたい場合は職員までお知らせください。
- ②ご意見ありがとうございます。他室のあまりにも大きな音等については、職員までお知らせください。都度ご対応させていただきます。

【3】予約・支払について<ご意見>

- ①夜間が全然予約取れない。
- ②クレジット決済ができると嬉しいです。
- ③支払方法を増やしてほしいです。

【3】予約・支払について<回答>

- ①利用登録区分ごとに、一斉予約受付日を設けています。一斉受付に参加いただけると、ご希望日、またはご希望に近い日程で予約することも可能になると思いますので、不明な点は職員までお知らせください。
- ②～④貸室の受付に関しましては、札幌市若者支援施設条例・施行規則に則り運営しております。

【4】その他 <ご意見>

- ①いつも利用させていただきありがとうございます。
- ③スタッフさんの対応が本当に良くて、いつも笑顔になります！不満はありません！いつも利用させてもらって感謝です！これからもよろしくお願いします。

【4】その他 <回答>

- ①～④いつもご利用いただきありがとうございます。引き続きよろしくお願いいたします。
これからも丁寧な対応を職員一同心掛けてまいります。

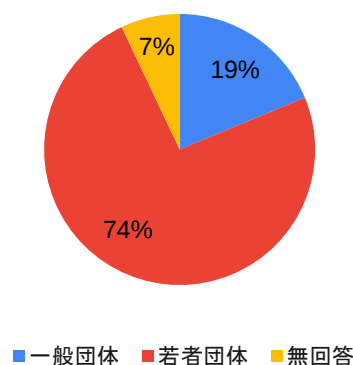


令和6年度 Youth+アカシア 窓口アンケート集計グラフ

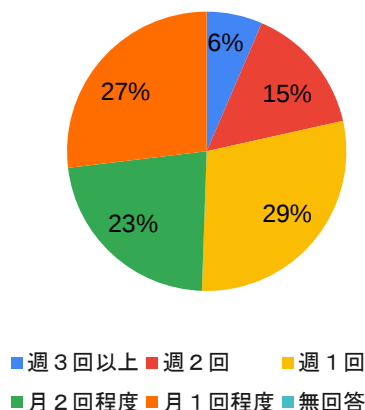
○システム満足度：満足 82.0% 中間15.6% 不満2.3% (若者：満83.2% 一般：満75.0% 無回答：満88.9%)
 ○部屋維持満足度：満足 89.8% 中間 7.8% 不満2.3% (若者：満91.6% 一般：満83.3% 無回答：満88.9%)
 ○職員接遇満足度：満足 93.8% 中間 3.9% 不満2.3% (若者：満94.7% 一般：満91.7% 無回答：満88.9%)
 ○総合満足度：満足 96.1% 中間 3.1% 不満0.8% (若者：満97.9% 一般：満87.5% 無回答：満100.0%)

※いづれも、満足：「満足」「やや満足」の合計

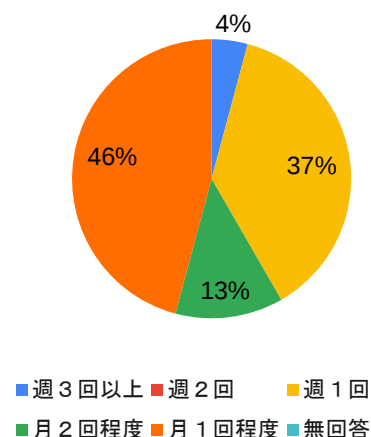
Q1.ご利用区分をお知らせください



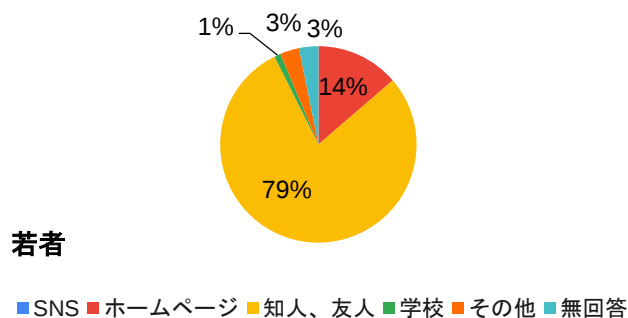
利用頻度：若者



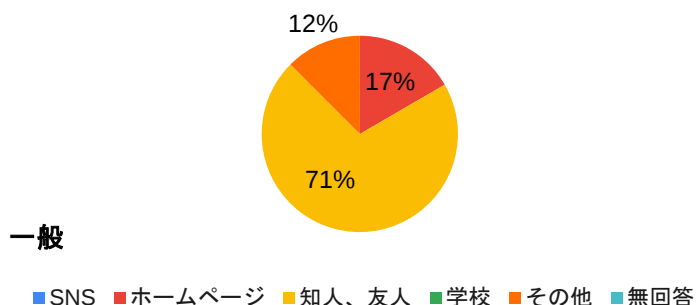
利用頻度：一般



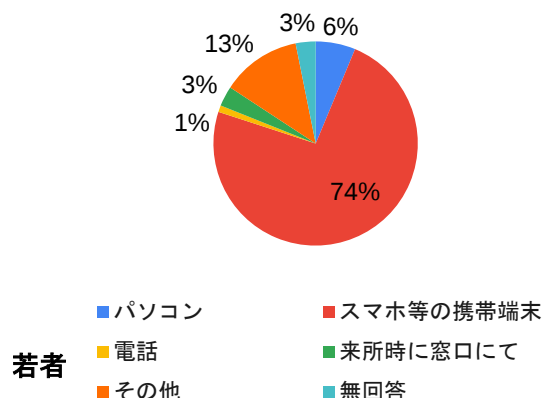
Q1.初めて施設を知ったきっかけは何でしょうか？



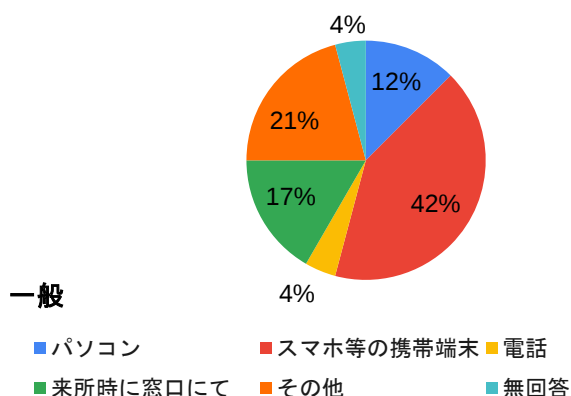
Q1.初めて施設を知ったきっかけは何でしょうか？



Q2.空き状況をどのように確認していますか？



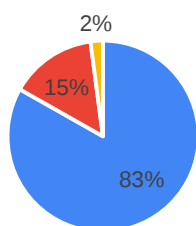
Q2.空き状況をどのように確認していますか？





令和6年度 Youth+アカシア 窓口アンケート集計グラフ

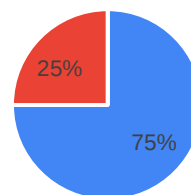
Q3.利用の申し込みシステムは
分かりやすいですか？



若者

■ 満足 ■ どちらともいえない ■ 不満

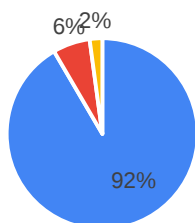
Q3.利用の申し込みシステムは
分かりやすいですか？



一般

■ 満足 ■ どちらともいえない ■ 不満

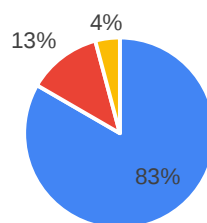
Q4.部屋や設備は
良好に維持管理されていますか？



若者

■ 満足 ■ どちらともいえない ■ 不満

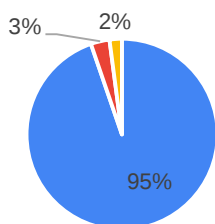
Q4.部屋や設備は
良好に維持管理されていますか？



一般

■ 満足 ■ どちらともいえない ■ 不満

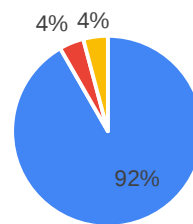
Q5.職員の対応（接遇）
はいかがですか？



若者

■ 満足 ■ どちらともいえない ■ 不満

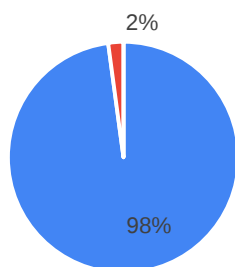
Q5.職員の対応（接遇）
はいかがですか？



一般

■ 満足 ■ どちらともいえない ■ 不満

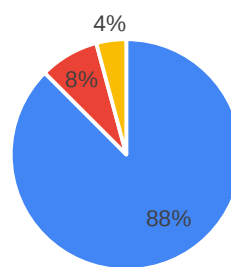
Q6.施設利用総合満足度は？



若者

■ 満足 ■ どちらともいえない ■ 不満

Q6.施設利用総合満足度は？



一般

■ 満足 ■ どちらともいえない ■ 不満



令和6年度 Youth+アカシア（アカシア若者活動センター）窓口アンケート自由記述

【1】備品について <ご意見>

- ①体育室のカーテンを直して欲しい。音楽室のドラムの椅子が下がりやすいです。
- ③鏡を追加していただきたいです。

【1】備品について <回答>

- ①②早急に対応させていただきます。今後も不備等がありましたらスタッフまで声をお掛けください。
- ③部屋の利用状況により、他の部屋に設置している鑑をお貸しすることもできますので、スタッフまで声をお掛けください。

【2】施設・設備について <ご意見>

- ①夏場の体育室がサウナのような日もある。夏場運動できる環境にしていきたい。
- ②音楽室を利用させていただいています。ほこりや掃除が不十分と感じています。譜面台の故障も多く利用できない状態です。
- ③低価格で利用出来てとてもありがたいが、駐車場がもう少し停められると助かります…。

【2】施設・設備について <回答>

- ①スポットエアコンの設置及び扇風機の設置を進めさせていただきました。今後も安全にご利用いただけるよう引き続き努めてまいります。
- ②施設内の汚れや、備品の破損あれば職員までお知らせください。ご対応させていただきます。
- ③駐車スペースの狭さでご不便をおかけしてしまい申し訳ございません。少しでも駐停車がしやすくなるように、白線の引き方を変更いたしましたが、今後も改善を図ってまいります。

【3】予約・支払について<ご意見>

- ①支払い後キャンセルできないところが不便です。
- ②キャンセル会場が無駄になってしまうのはもったいないのでいい方法を導入して欲しいです。
- ③一般申し込みですが、1月は、例年4日の申し込みになるので5日以降にしていきたい。
- ④5分前には部屋を明け渡してほしい 毎回、時間がおしてしまいお互い嫌な気持ちになるので

【3】予約・支払について<回答>

- ①～④貸室の受付に関しましては、札幌市若者支援施設条例・施行規則に則り運営しております。ご理解いただきますようお願いいたします。

【4】その他 <ご意見>

- ①ダンス練習で利用させていただきミラーあるのは、とても良かったです。利用料安くて、ありがたかったです。wifiが途中遅くなる事があったので 早く動くようになった。
- ②25年前ぐらい（当時は学生でした）からこちらをご利用させていただいています。40代半ばになった今でも、こうして在ることはありがたいです。いつもありがとうございます。

【4】その他 <回答>

- ①②ありがとうございます。皆様のお声を励みにより良い施設運営を行ってまいります。ご活用いただきありがとうございます。これからもたくさんの方に知っていただき、利用しやすい施設づくりを進めてまいります。

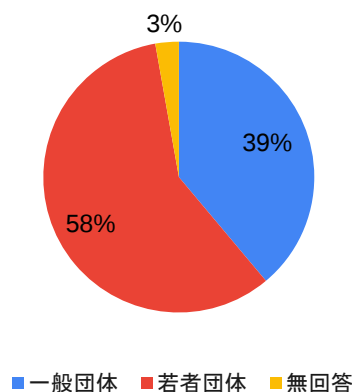


令和6年度 Youth+ポプラ 窓口アンケート集計グラフ

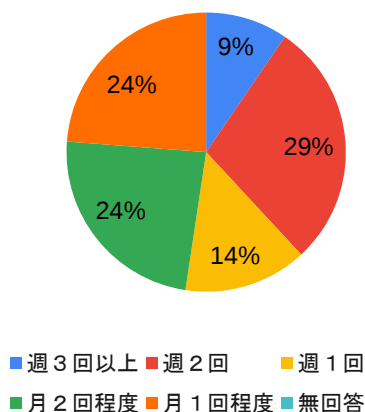
○システム満足度：満足 52.8% 中間44.4% 不満2.8% (若者：満42.9% 一般：満64.3% 無回答：満100.0%)
○部屋維持満足度：満足 66.7% 中間33.3% 不満0.0% (若者：満57.1% 一般：満78.6% 無回答：満100.0%)
○職員接遇満足度：満足 80.6% 中間19.4% 不満0.0% (若者：満71.4% 一般：満92.9% 無回答：満100.0%)
○総合満足度：満足 75.0% 中間25.0% 不満0.0% (若者：満61.9% 一般：満92.9% 無回答：満100.0%)

※いづれも、満足：「満足」「やや満足」の合計

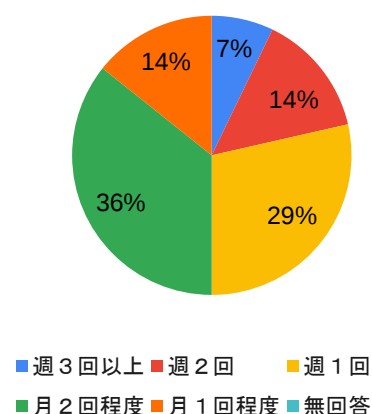
Q1.ご利用区分をお知らせください



利用頻度：若者

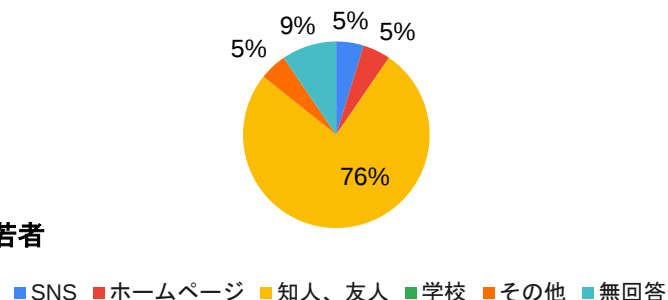


利用頻度：一般



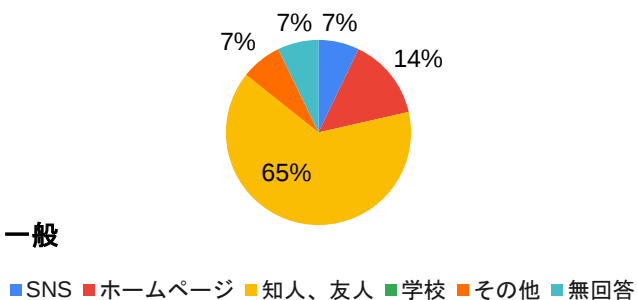
Q1.初めて施設を知ったきっかけは何でしょうか？

若者



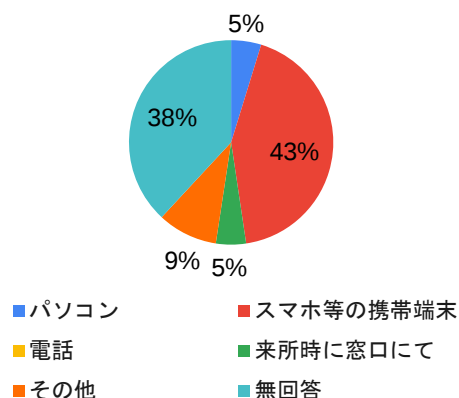
Q1.初めて施設を知ったきっかけは何でしょうか？

一般



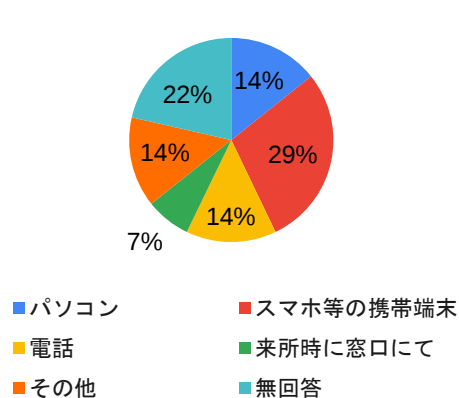
Q2.空き状況をどのように確認していますか？

若者



Q2.空き状況をどのように確認していますか？

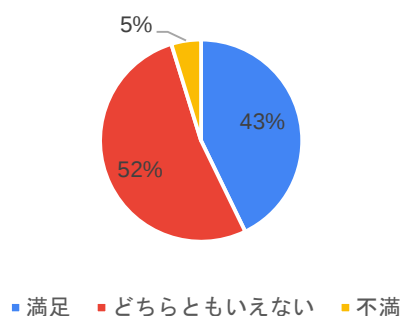
一般





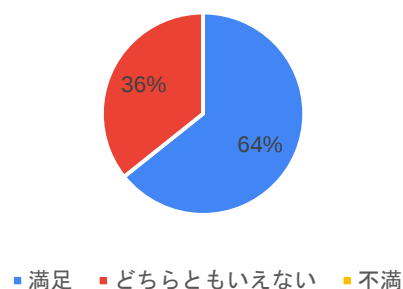
令和6年度 Youth+ポプラ 窓口アンケート集計グラフ

Q3.利用の申し込みシステムは
分かりやすいですか？



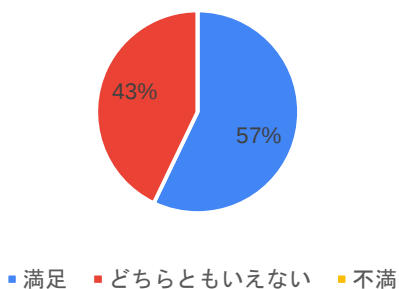
若者

Q3.利用の申し込みシステムは
分かりやすいですか？



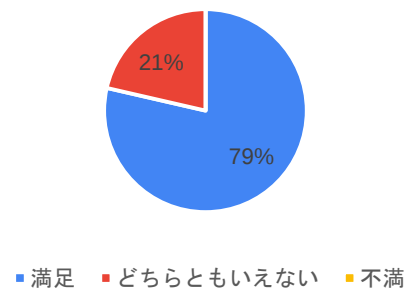
一般

Q4.部屋や設備は
良好に維持管理されていますか？



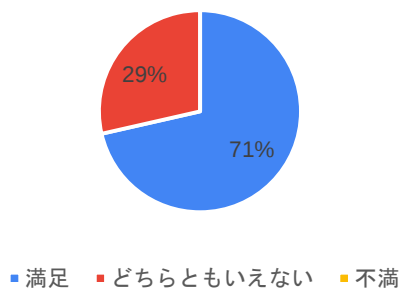
若者

Q4.部屋や設備は
良好に維持管理されていますか？



一般

Q5.職員の対応（接遇）
はいかがですか？



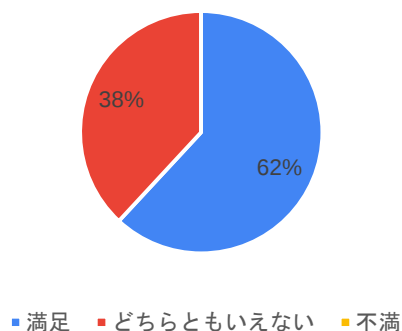
若者

Q5.職員の対応（接遇）
はいかがですか？



一般

Q6.施設利用総合満足度は？



若者

Q6.施設利用総合満足度は？



一般



令和6年度 Youth+ポプラ（ポプラ若者活動センター）窓口アンケート自由記述

【1】施設について <ご意見>

- ①床掃除していると聞いているがわたぼこりがあったり、モップ自体がゴミだらけのことが多い。

【1】施設について <回答>

- ①不快な思いをさせてしまい大変申し訳ありませんでした。
施設内の汚れや、備品の破損あれば職員までお知らせください。ご対応させていただきます。

【2】その他 <ご意見>

- ①コピーの使用中止が残念です。
②いつも気持ちよく使わせていただいています。
③いつも利用させていただく際に部屋がとても綺麗に保たれていて、使う側としても
とても気持ちよく利用でき、綺麗を保とうと思えるので嬉しいので満足しています。
④リーズナブルに借りられてとても満足です。WiFi環境が整ったらもっと良いなという★4です。
いつもありがとうございます！

【2】その他 <回答>

- ①ご不便をおかけし大変申し訳ありません。コピーサービス終了に伴い、近くのコンビニエンス
ストアなどをご案内させていただいております。
お手数かけますが、ご理解のほどお願いいたします。
②③ありがとうございます。皆様のお声を励みにより良い施設運営を行ってまいります。
④Wi-Fi環境について、ご不便をおかけし大変申し訳ありません。
ロビーは、Wi-Fiにつながりやすい環境となっておりますので、必要に応じロビーでご活用くだ

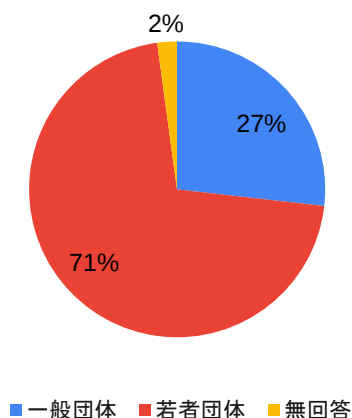


令和6年度 Youth+豊平 窓口アンケート集計グラフ

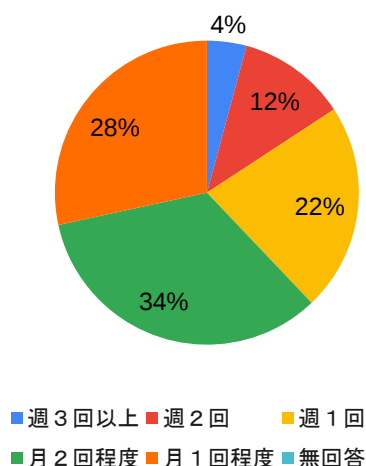
○システム満足度：満足 78.8% 中間16.8% 不満4.4% (若者：満77.6% 一般：満78.4% 無回答：満100.0%)
○部屋維持満足度：満足 84.1% 中間12.3% 不満3.6% (若者：満86.7% 一般：満75.7% 無回答：満100.0%)
○職員接遇満足度：満足 90.6% 中間 8.0% 不満1.4% (若者：満90.8% 一般：満89.2% 無回答：満100.0%)
○総合満足度：満足 92.0% 中間 7.2% 不満0.7% (若者：満93.9% 一般：満86.5% 無回答：満100.0%)

※いづれも、満足：「満足」「やや満足」の合計

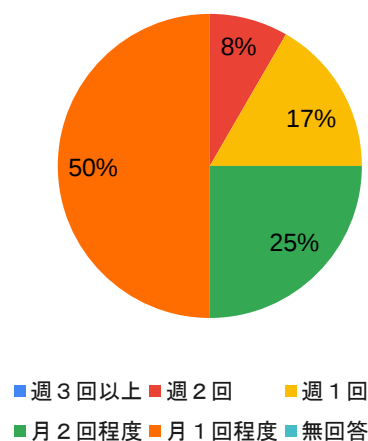
Q1.ご利用区分をお知らせください



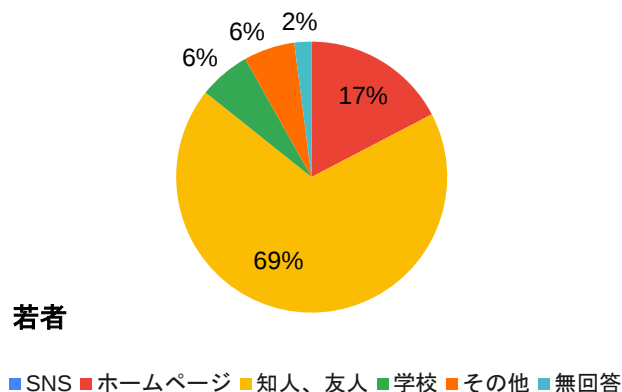
利用頻度：若者



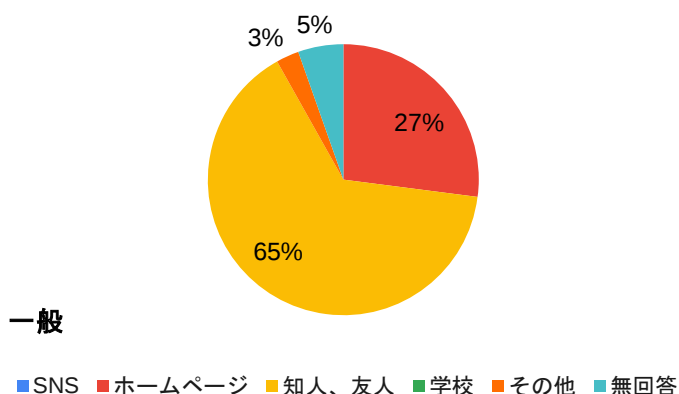
利用頻度：一般



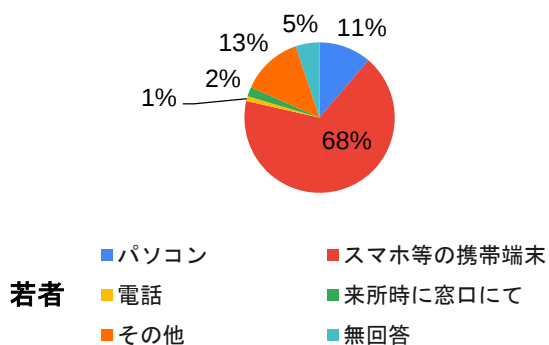
Q1.初めて施設を知ったきっかけは何でしょうか



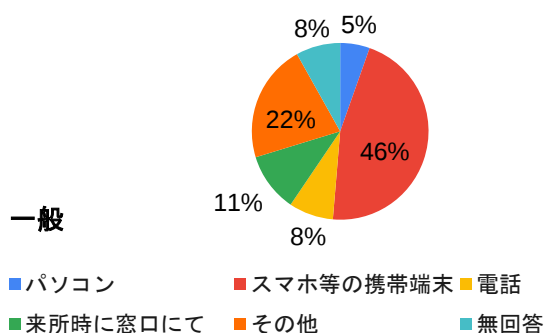
Q1.初めて施設を知ったきっかけは何でしょうか



Q2.空き状況をどのように確認していますか若者



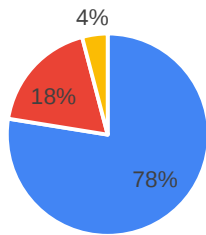
Q2.空き状況をどのように確認していますか





令和6年度 Youth+豊平 窓口アンケート集計グラフ

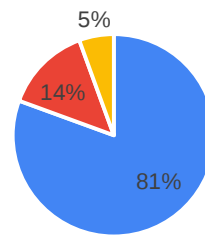
Q3.利用の申し込みシステムは
分かりやすいですか？



若者

■ 満足 ■ どちらともいえない ■ 不満

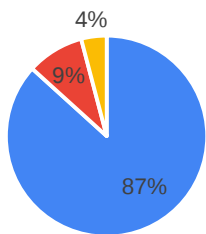
Q3.利用の申し込みシステムは
分かりやすいですか？



一般

■ 満足 ■ どちらともいえない ■ 不満

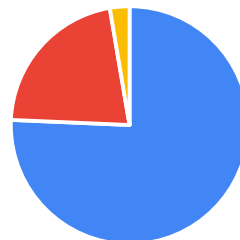
Q4.部屋や設備は
良好に維持管理されていますか？



若者

■ 満足 ■ どちらともいえない ■ 不満

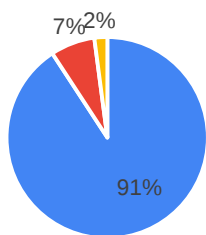
Q4.部屋や設備は
良好に維持管理されていますか？



一般

■ 満足 ■ どちらともいえない ■ 不満

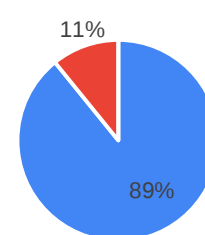
Q5.職員の対応（接遇）
はいかがですか？



若者

■ 満足 ■ どちらともいえない ■ 不満

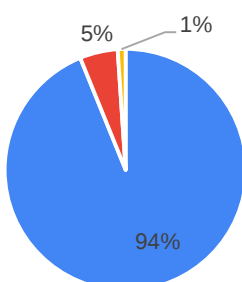
Q5.職員の対応（接遇）
はいかがですか？



一般

■ 満足 ■ どちらともいえない ■ 不満

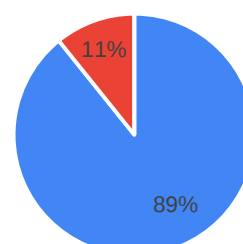
Q6.施設利用総合満足度は？



若者

■ 満足 ■ どちらともいえない ■ 不満

Q6.施設利用総合満足度は？



一般

■ 満足 ■ どちらともいえない ■ 不満



【1】備品について <ご意見>

- ①通信制の学校では体育館がないこともありゼッケンや各種ボール等があまりないため、貸出物品が増えると非常に嬉しいです。
- ②音楽室の譜面台がこわれた（使えない）ままのものが 있습니다。新しい譜面台があると嬉しいで

【1】備品について <回答>

- ①スタッフが管理している物品もありますので、必要なものがありましたらスタッフまでお声掛けください。みなさまの要望を取り入れながら施設運営を進めてまいります。
- ②ご不便をおかけし申し訳ありません。修理可能なものは修理して設置させていただきます。備品で気に入るものがありましたらスタッフまで声を掛けていただくようお願いいたします。

【2】施設・設備について <ご意見>

- ①おトイレを新しくしていただくと嬉しいです。（洋式）
- ②切れている照明もつくようにしていただくとけると嬉しいです。
- ③強いて言うなら駐車場もう少し増やしてください。

【2】施設・設備について <回答>

- ①すぐに改修を行うことは難しいですが、札幌市と協議させていただいております。協議がまとまりましたらみなさまへお知らせさせていただきます。
- ②ご不便をおかけし申し訳ありませんでした。照明含め各部屋の設備に不具合があった場合は職員までお知らせください。ご対応させていただきます。
- ③駐車スペースの狭さでご不便をおかけしてしまい申し訳ございません。

【3】予約・支払について<ご意見>

- ①現金以外の支払い方法がほしい！！
- ②1カ月以上前の予約であれば、キャンセルや日にちの変更ができるとより利用しやすい。
- ③月イチの調整会議の日を毎月15日ではなく「月の第2週の水曜日」などにしてほしい。

【3】予約・支払について<回答>

- ①～④貸室の受付に関しましては、札幌市若者支援施設条例・施行規則に則り運営しております。

【4】その他 <ご意見>

- ①いつも有り難うございます。良心的な貸室料金+職員様の心温まる接客に、とても感謝しています。借りている側も「大切に施設を利用しよう」と思わせていただいております。

【4】その他 <回答>

- ①ありがとうございます。皆様のお声を励みにより良い施設運営を行ってまいります。
- ②利用対象年齢は、札幌市若者支援施設条例・施行規則に則り運営しております。

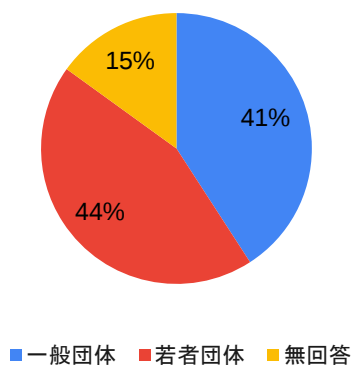


令和6年度 Youth+宮の沢 窓口アンケート集計グラフ

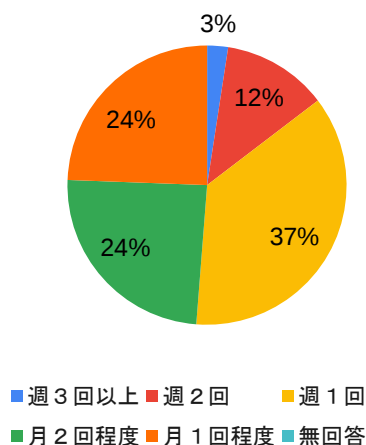
○システム満足度：満足 70.0% 中間23.3% 不満6.7% (若者：満65.9% 一般：満68.4% 無回答：満71.4%)
 ○部屋維持満足度：満足 82.2% 中間10.0% 不満7.8% (若者：満82.9% 一般：満73.7% 無回答：満85.7%)
 ○職員接遇満足度：満足 86.7% 中間12.2% 不満1/1% (若者：満90.2% 一般：満76.3% 無回答：満85.7%)
 ○総合満足度：満足 85.6% 中間11.1% 不満3.3% (若者：満85.4% 一般：満78.9% 無回答：満85.7%)

※いづれも、満足：「満足」「やや満足」の合計

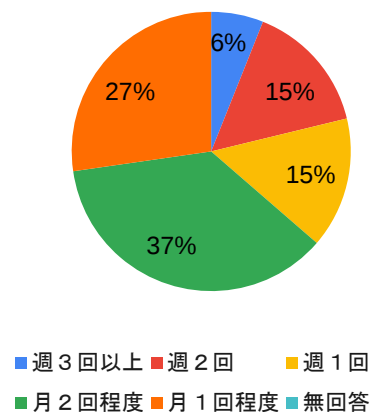
Q1.ご利用区分を
お知らせください



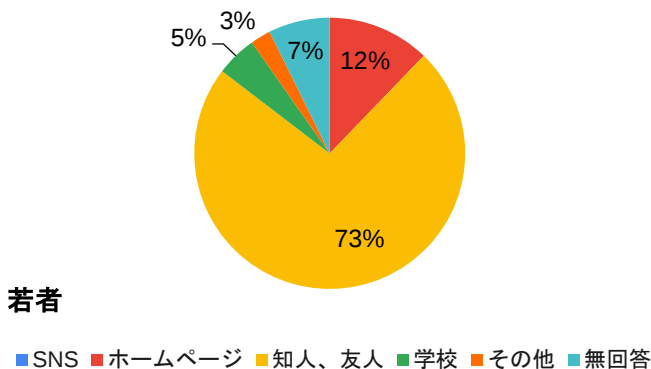
利用頻度：若者



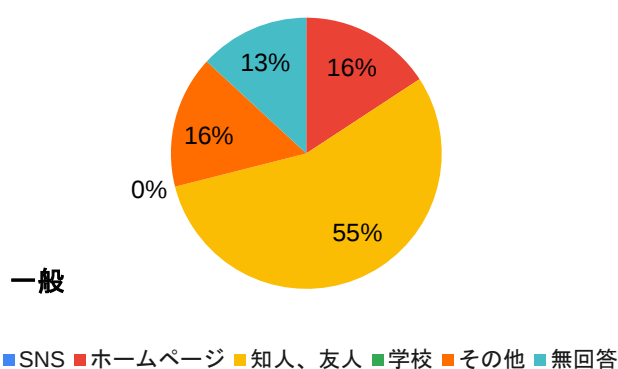
利用頻度：一般



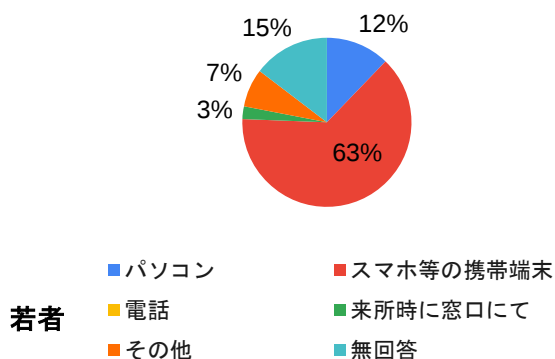
Q1.初めて施設を知ったきっかけ
は何でしょうか



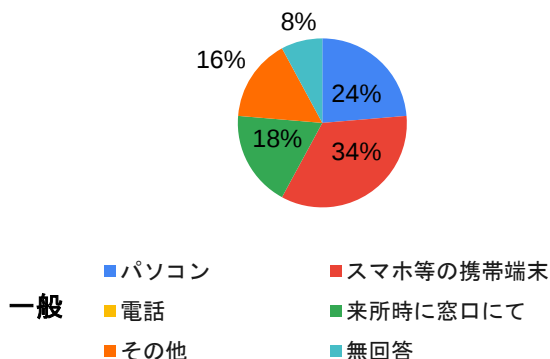
Q1.初めて施設を知ったきっかけ
は何でしょうか



Q2.空き状況をどのように
確認していますか



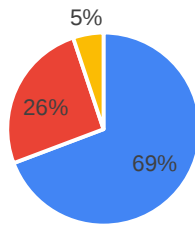
Q2.空き状況をどのように
確認していますか





令和6年度 Youth+宮の沢 窓口アンケート集計グラフ

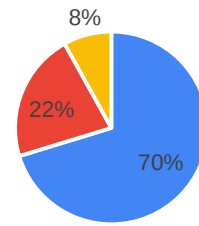
Q3.利用の申し込みシステムは
分かりやすいですか？



若者

■ 満足 ■ どちらともいえない ■ 不満

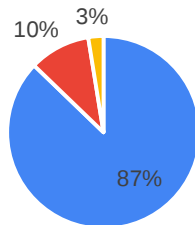
Q3.利用の申し込みシステムは
分かりやすいですか？



一般

■ 満足 ■ どちらともいえない ■ 不満

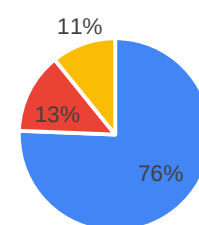
Q4.部屋や設備は
良好に維持管理されていますか？



若者

■ 満足 ■ どちらともいえない ■ 不満

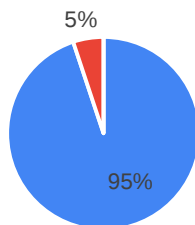
Q4.部屋や設備は
良好に維持管理されていますか？



一般

■ 満足 ■ どちらともいえない ■ 不満

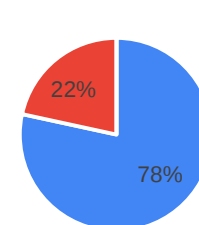
Q5.職員の対応（接遇）
はいかがですか？



若者

■ 満足 ■ どちらともいえない ■ 不満

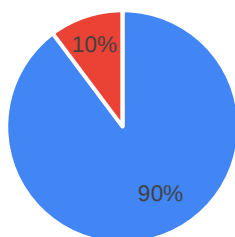
Q5.職員の対応（接遇）
はいかがですか？



一般

■ 満足 ■ どちらともいえない ■ 不満

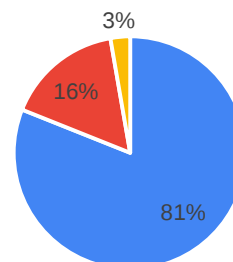
Q6.施設利用総合満足度は？



若者

■ 満足 ■ どちらともいえない ■ 不満

Q6.施設利用総合満足度は？



一般

■ 満足 ■ どちらともいえない ■ 不満



令和6年度 Youth+宮の沢（宮の沢若者活動センター）窓口アンケート自由記述

【1】備品について <ご意見>

- ①ピアノの調整を望んでますが改善されません。上がってこない鍵盤がいくつかあります（今日は真中のソの#）

【1】備品について <回答>

- ①ご不便をおかけし申し訳ありませんでした。定期的な調律を行いメンテナンスを行っておりますが、気になることがありましたら職員までお声がけください。

【2】施設・設備について <ご意見>

- ①各部屋でwi-fiが使えるようになるとありがたいです（無理そうですが・・・笑）
②換気扇の臭いが気になります。エアコン

【2】施設・設備について <回答>

- ①施設を改修し機器を導入することが必要となるため、すぐにすべての部屋に対して対応することは難しいですが、現在ロビーにFree Wi-Fiを設置していますので、こちらで利用していただくと幸いです。
②不快な思いをさせてしまい大変申し訳ありませんでした。ちえりあ内の清掃や空調、室温調整は施設全体で一括管理しております。施設管理者と情報を共有しながら衛生管理を図ってまいります。

【3】予約・支払について<ご意見>

- ①会場の抽選を区民センターみたいにパソコンでしてほしい。
②支払いを振込可にして欲しい。
③支払い期限が予約してから3日間なので1週間くらいあると払いやすいかなと思いました。

【3】予約・支払について<回答>

- ①～③貸室の受付に関しましては、札幌市若者支援施設条例・施行規則に則り運営しております。ご理解いただくと幸いです。

【4】その他 <ご意見>

- ①いつもつかわせてもらっています。ありがとうございます。
②安い金額で綺麗で設備が整っていて最高です！
③駐車券 人数分 利用時間内無料にしてほしい

【4】その他 <回答>

- ①～②ありがとうございます。皆様のお声を励みにより良い施設運営を行ってまいります。
③お車でお越しの場合、お部屋の利用区分に応じた駐車料金無料のサービスを行っております。利用時間分無料となるのは駐車券2枚までですが、貸室利用の有無を問わずちえりあ来館者の方には「2時間」無料のサービスを行っております。お車でのご来館3台以目以降については、「2時間」無料サービスをご案内させていただいております。

札幌市若者支援施設 指定管理業務収支報告書(総括表)

法人・団体名：公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会

1. 収入

(単位：千円)

項 目	予算額(A)	決算額(B)	差異(B-A)	備考
指定管理費	178,094	180,323	2,229	
利用料金収入	30,300	27,007	-3,293	
その他の収入	472	1,842	1,370	
自主事業収入	47,812	50,892	3,080	
合 計 (C)	256,678	260,064	3,386	

2. 支出

(単位：千円)

項 目	予算額(A)	決算額(B)	差異(B-A)	備考
人件費	182,805	174,847	-7,958	※指定管理・自主業務別シートに記載
旅費・交通費	1,610	833	-777	
通信運搬費	2,170	1,915	-255	
減価償却費	3,826	3,744	-82	
消耗品費	3,487	4,305	818	
修繕費	750	492	-258	
印刷製本費	0	0	0	
燃料費	4,914	4,451	-463	
光熱水費	8,235	7,758	-477	
賃借料	2,531	2,412	-119	
入場料	0	0	0	
保険料	600	142	-458	
諸謝金	2,513	3,240	727	
租税公課	18,039	18,116	77	
負担金	366	50	-316	
委託費	14,196	13,280	-916	
役務費	5,338	5,459	121	
支払手数料	3	2	-1	
備品費	680	507	-173	
広告宣伝費	950	1,517	567	
会議費	16	7	-9	
行政財産目的外使用	50		-50	
雑費	64	51	-13	
その他の支出	6,818	6,820	2	
合 計(D)	259,961	249,948	-10,013	

3. 収支差額

(単位：千円)

項 目	予算額(A)	決算額(B)
収支差額(C-D)	-3,283	10,116

(1)収支報告書(総括表：施設別)

法人・団体目名：公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会

1. 収入

(単位：千円)

項 目	決算						備考
	総合	アカシア	ポプラ	豊平	宮の沢	決算額(B)	
指定管理費	180,323	0	0	0	0	180,323	
利用料金収入	3,918	5,385	1,313	5,685	10,706	27,007	貸室利用料金
その他の収入	1,671	10	8	25	128	1,842	参加料・受講料、受取利息等
自主事業	46,583	185	3,609	281	234	50,892	企画事業収益、受託事業、飲料販売等
合 計 (C)	232,495	5,580	4,930	5,991	11,068	260,064	

2. 支出

(単位：千円)

項 目	決算						備考
	総合	アカシア	ポプラ	豊平	宮の沢	決算額(B)	
人件費	172,154	0	2,693	0	0	174,847	人件費は総合に計上
旅費・交通費	561	123	59	42	48	833	外勤旅費・出張旅費
通信運搬費	1,318	144	156	143	154	1,915	電話、携帯電話、切手
減価償却費	3,744	0	0	0	0	3,744	受付システム等ソフトウェア等（総合に計上）
消耗品費	2,324	463	621	448	449	4,305	管理用品、衛生用品、事務用品等
修繕費	0	0	0	492	0	492	軽微な修繕
印刷製本費	0	0	0	0	0	0	
燃料費	1,414	0	1,421	1,616	0	4,451	冷暖房用燃料
光熱水費	988	3,003	853	2,835	28	7,707	電気使用料、上下水道、ガス使用料
入場料	0	0	0	0	0	0	
賃借料	1,235	332	265	265	315	2,412	複写機等賃借料
保険料	142	0	0	0	0	142	施設賠償責任保険、レクリエーション保険ほか
諸謝金	3,232	8	0	0	0	3,240	清掃ジョブトレ謝金及び各種講座講師謝礼
租税公課	18,116	0	0	0	0	18,116	契約書印紙税、消費税等（比率按分）
負担金	33	7	0	7	3	50	講習・研修参加料、町内会費
委託費	7,281	2,802	131	2,986	80	13,280	機械警備業務、清掃業務等
役務費	4,510	303	249	344	53	5,459	HP保守、各種設備点検業務等
支払手数料	2	0	0	0	0	2	総合に一括計上
備品費	167	85	85	85	85	507	備品の更新等
広告宣伝費	1,451	0	0	66	0	1,517	施設リーフレット、求人広告
会議費	7	0	0	0	0	7	運営協議会等お茶
行政財産目的外使用	0	0	0	17	34	51	自動販売機設置料（宮の沢、豊平）
雑費	51	0	0	0	0	51	来館者閲覧用新聞・雑誌
その他（法人事業費等）	6,820	0	0	0	0	6,820	法人管理経費及び法人税（比率按分）
合 計(D)	225,550	7,270	6,533	9,346	1,249	249,948	

3. 収支差額

(単位：千円)

項 目	決算					
	総合	アカシア	ポプラ	豊平	宮の沢	決算額(B)
収支差額(C-D)	6,945	-1,690	-1,603	-3,355	9,819	10,116

(2)収支報告書(指定管理事業：施設別)

法人・団体目名：公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会

1. 収入

(単位：千円)

項 目	決算						備考
	総合	アカシア	ポプラ	豊平	宮の沢	決算額(B)	
指定管理費	180,323	0	0	0	0	180,323	
利用料金収入	3,918	5,385	1,313	5,685	10,706	27,007	貸室利用料金
その他の収入	1,671	10	8	25	128	1,842	参加料・受講料、受取手数料等
自主事業	0	0	0	0	0	0	
合 計 (C)	185,912	5,395	1,321	5,710	10,834	209,172	

2. 支出

(単位：千円)

項 目	決算						備考
	総合	アカシア	ポプラ	豊平	宮の沢	決算額(B)	
人件費	137,046	0	0	0	0	137,046	人件費は総合に計上
旅費・交通費	444	123	59	42	48	716	外勤旅費・出張旅費
通信運搬費	918	144	156	143	154	1,515	電話、携帯電話、切手
減価償却費	3,744	0	0	0	0	3,744	受付システム等ソフトウェア等（総合に計上）
消耗品費	1,550	311	553	448	449	3,311	管理用品、衛生用品、事務用品等
修繕費	0	0	0	492	0	492	軽微な修繕
印刷製本費	0	0	0	0	0	0	
燃料費	1,414	0	1,421	1,616		4,451	冷暖房用燃料
光熱水費	988	3,003	853	2,790	0	7,634	電気使用料、上下水道、ガス使用料
入場料	0	0	0	0	0	0	
賃借料	980	332	265	265	315	2,157	印刷機、複写機等賃借料
保険料	142	0	0	0	0	142	施設賠償責任保険、レクリエーション保険ほか
諸謝金	1,352	8	0	0	0	1,360	清掃ジョブトレ謝金及び各種講座講師謝礼
租税公課	18,116	0	0	0	0	18,116	契約書印紙税、消費税等（財団内比率按分）
負担金	33	7	0	7	3	50	講習・研修参加料
委託費	7,281	2,802	131	2,986	80	13,280	機械警備業務、清掃業務等
役務費	4,507	303	117	344	53	5,324	googleアカウントライセンス、各種点検業務等
支払手数料	2	0	0	0	0	2	総合に一括計上
備品費	167	85	85	85	85	507	破損備品の更新等
広告宣伝費	966	0	0	66	0	1,032	Web求人広告、HPウェブアクセシビリティ対応他
会議費	7	0	0	0	0	7	運営協議会等お茶
行政財産目的外使用料	0	0	0	0	0	0	
雑費	0	0	0	0	0	0	
その他（法人事業費等）	6,820	0	0	0	0	6,820	法人管理経費及び法人税（比率按分）
合 計(D)	186,477	7,118	3,640	9,284	1,187	207,706	

3. 収支差額

(単位：千円)

項 目	決算					
	総合	アカシア	ポプラ	豊平	宮の沢	決算額(B)
収支差額(C-D)	-565	-1,723	-2,319	-3,574	9,647	1,466

(3)収支報告書(自主事業：施設別)

法人・団体目名：公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会

1. 収入 (単位：千円)

項 目	決算						備考
	総合	アカシア	ポプラ	豊平	宮の沢	決算額(B)	
1) 飲料販売	187	185	74	0	0	446	飲料水販売
2)自動販売機設置	0	0	0	281	234	515	電気料・設置料・受取手数料含む
3)印刷事業	0	0	0	0	0	0	
4)サポステ事業	42,441	0	0	0	0	42,441	「さっぽろ若者サポートステーション」
5)自立支援・事業受託	3,955	0	3,535	0	0	7,490	まなぷらっと、まちづくりイベント広場
合 計 (C)	46,583	185	3,609	281	234	50,892	

2. 支出 (単位：千円)

項 目	決算						備考
	総合	アカシア	ポプラ	豊平	宮の沢	決算額(B)	
人件費	35,108	0	2,693	0	0	37,801	サポステ相談員・受託事業従事者等給与
旅費・交通費	117	0	0	0	0	117	市内外勤旅費および出張旅費
通信運搬費	400	0	0	0	0	400	資料配布切手、専用携帯電話
減価償却費	0	0	0	0	0	0	
消耗品費	774	152	68	0	0	994	物品販売用飲料水等
修繕費	0	0	0	0	0	0	
印刷製本費	0	0	0	0	0	0	
燃料費	0	0	0	0	0	0	
光熱水費	0	0	0	45	28	73	自動販売設置料（電気料）
入場料	0	0	0	0	0	0	
賃借料	255	0	0	0	0	255	PCおよび複写機等
保険料	0	0	0	0	0	0	
諸謝金	1,880	0	0	0	0	1,880	自立支援相談業務謝礼
租税公課	0	0	0	0	0	0	
負担金	0	0	0	0	0	0	
委託費	0	0	0	0	0	0	
役務費	3	0	132	0	0	135	まちづくりイベント広場HP保守等
支払手数料	0	0	0	0	0	0	
備品費	0	0	0	0	0	0	
広告宣伝費	485	0	0	0	0	485	リーフレット制作
会議費	0	0	0	0	0	0	
行政財産目的外使用料	0	0	0	17	34	51	自動販売機設置料（豊平・宮の沢）
雑費	51	0	0	0	0	51	利用者閲覧用雑誌
その他(法人事業費等)	0	0	0	0	0	0	
合 計(D)	39,073	152	2,893	62	62	42,242	

3. 収支差額 (単位：千円)

項 目	決算					
	総合	アカシア	ポプラ	豊平	宮の沢	決算額(B)
収支差額(C-D)	7,510	33	716	219	172	8,650